

三重県

みえ
歴史街道
ウォーキング
マップ

伊勢街道

ISE



伊勢街道

伊勢街道の概要

伊勢街道は、日永の追分で東海道から分岐して、伊勢湾沿いを南下し伊勢へと至る。その距離およそ十八里。日永の追分、白子、津、六軒、松坂、斎宮^{さいぐう}そして伊勢へのルートは、近世にはほぼ固定され、幕府によって脇街道として整備された。

「伊勢に行きたい伊勢路が見たい。たとえ一生に一度でも」と伊勢音頭にも歌われ、多くの人々があこがれた伊勢参り。

もともと伊勢神宮は皇祖神を祀る神社として、一般人は参拝することができなかったが、平安時代以降、天皇・貴族の権力が衰えると、武士、そして庶民にも伊勢信仰が広がり、室町・戦国時代ごろには庶民の伊勢参宮もかなり一般化していたという。

また、「御師^{おんし}」と呼ばれる人々が地方に赴いて布教活動を行い、各地で「講(伊勢講)」と呼ばれる組織を

作り、組織的に伊勢参りをすすめていった。

近世の伊勢参りでは、この「講」で資金を積み立て、その代表者が伊勢参りをする「本参り」が主流であったが、中には親や主人の許可なく抜け出して参宮する者もあり、これらは「抜け参り」と呼ばれた。抜け参りをした場合、主人らはこれをとがめることなく、帰ってきた場合はお祝いをして迎える習慣だったため、抜け参りは後を絶たなかったという。

また、江戸時代には、伊勢のお札が降った等の噂が発端となり、人々が一時期に集中して参宮に押し寄せる「おかげ参り」が50〜60年周期で流行した。時には50万人もの人々が熱狂的に伊勢を目指したのである。

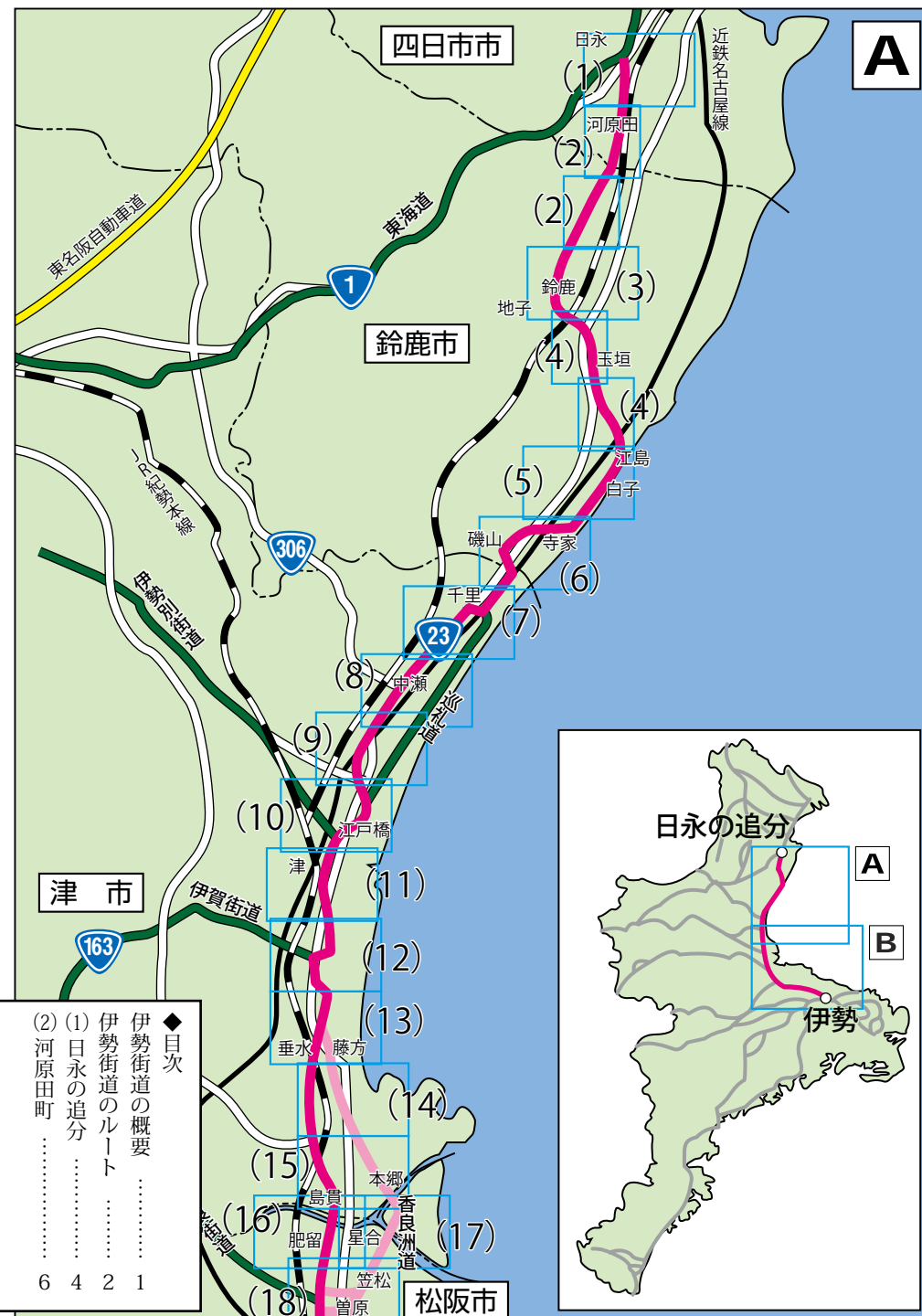
このように、伊勢街道は江戸時代には東海道に次いで交通量が多いにぎやかな街道で、多くの物資や情報も行き交い、途中、東海道や伊勢別街道、伊賀街道等、多くの街道が合流(分岐)するため、伊勢国の幹線道路として、地元の人々にとっても重要な道であった。

(「松阪」は、古くは「松坂」と書かれ、明治21年頃からしだいに「阪」が多く使われるようになった)

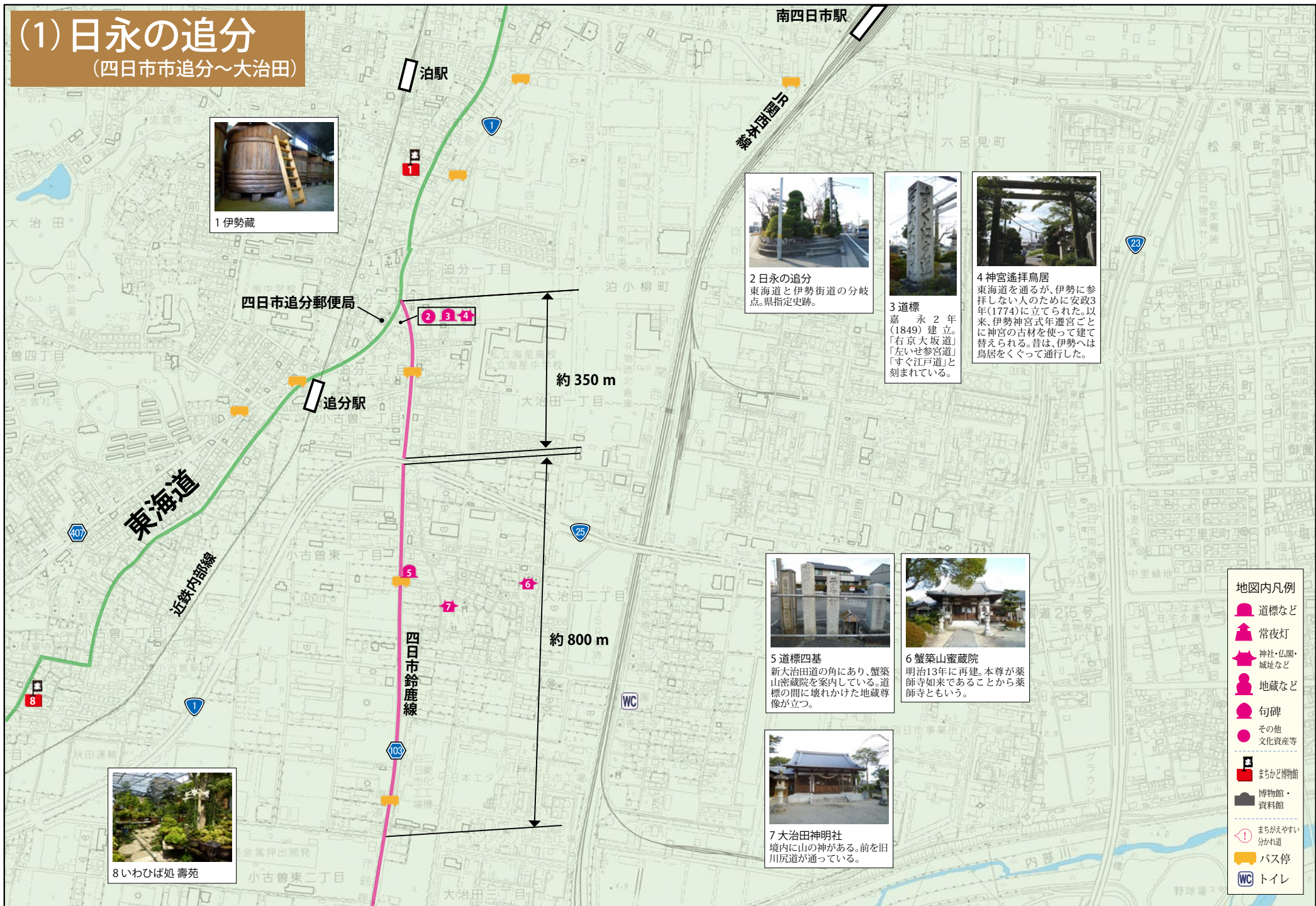




(30)	(29)	(28)	(27)	(26)	(25)	(24)	(23)	(22)	(21)	(20)	(19)	(18)	(17)	(16)	(15)	(14)	(13)	(12)	(11)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)
伊勢神宮内宮	古市	桜の渡し	相合	明星	斎宮	櫛田川	上川町	垣鼻町	松阪	久米	六軒	曾原	香良洲	島貫	高茶屋小森町	藤方	津南	津観音	栄町	江戸橋	栗真小川	中瀬	東千里	磯山	白子	東玉垣町	神戸
.....																											
78	74	72	70	68	64	62	60	58	56	52	48	42	40	38	36	34	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	8



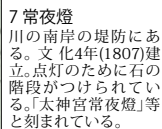
(1) 日永の追分 (四日市市追分～大治田)



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(2) 河原田町

(四日市市大治田～鈴鹿市須賀町)



7 常夜燈
川の南岸の堤防にある。文化4年(1807)建立。点灯のために石の階段がつけられている。「太神宮常夜燈」等と刻まれている。

嘉永6年(1853)に無
銭渡しの木橋が完成した。
それ以前は橋がなく、すぐ
に増水して大変不便であっ
たという。橋は、現在の
高岡橋よりも少し西に
あった。

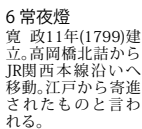
高架下をくぐる。

過去の

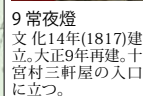
約 1000 m

8 高岡に行く街道
古代条里制の面影が残る畦道で、一直線に通っている。

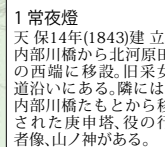
9 常夜燈
文化14年(1817)建立。大正9年再建。十宮村三軒屋の入口に立つ。



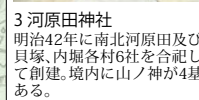
6 常夜燈
寛政11年(1799)建立。高岡橋北詰からJR関西本線沿いへ移動。江戸から寄進されたものと言われる。



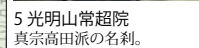
9 常夜燈
文化14年(1817)建立。大正9年再建。十宮村三軒屋の入口に立つ。



1 常夜燈
天保14年(1843)建立。
内部川橋から北河原田
の西端に移設。旧采女
道沿いにある。隣には、
内部川橋たもとから移
された庚申塔、役の行
者像、山ノ神がある。



3 河原田神社
明治42年に南北河原田及び
貝塚、内堀各村6社を合祀し
て創建。境内に山ノ神が4基
ある。



5 光明山常超院
真宗高田派の名刹。

かつては
橋がかかって
いた。

2 距離標
明治中頃のもの。警察官駐在所横にあり、津市等各地までの距離を示す。「津市六里三十二町」（約27km）等と刻まれている。

4 庚申塔八基
六基は自然石。河原田神社の参道を横切る川の堤を少し民家の方へ下りた所にある。

内部川

河原田橋



(内堀道

約 550 m

約 550 m

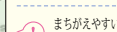
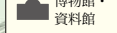
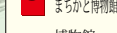
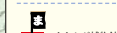
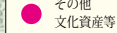
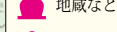
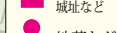
目塚道

JR

鄂田河

伊勢鉄道

地圖內凡例



(3) 神戸ーA (鈴鹿市須賀町～肥田町)



1 神戸の見附
街道の両側に石垣とそれに続く土塁が築かれ、石垣には木戸を支えた溝が残る。参宮の旅人等を監視する番所が置かれ、夜間には木戸を閉じて通行を禁じ、町の治安を守ったものと思われる。県指定史跡。



2 石垣
街道両側の石垣には木戸を支えた溝が刻まれている。



7 大橋
六郷川にかかる。かつては神戸藩士の水泳練習場であったといい、蜚の名所でもあった。



11 道標
元禄2年(1689)のもの。札の辻から観音寺境内へ移された。「左参宮かいどう」「右京ミち有」と刻まれている。



13 古き道具の館
生活工房かめだや



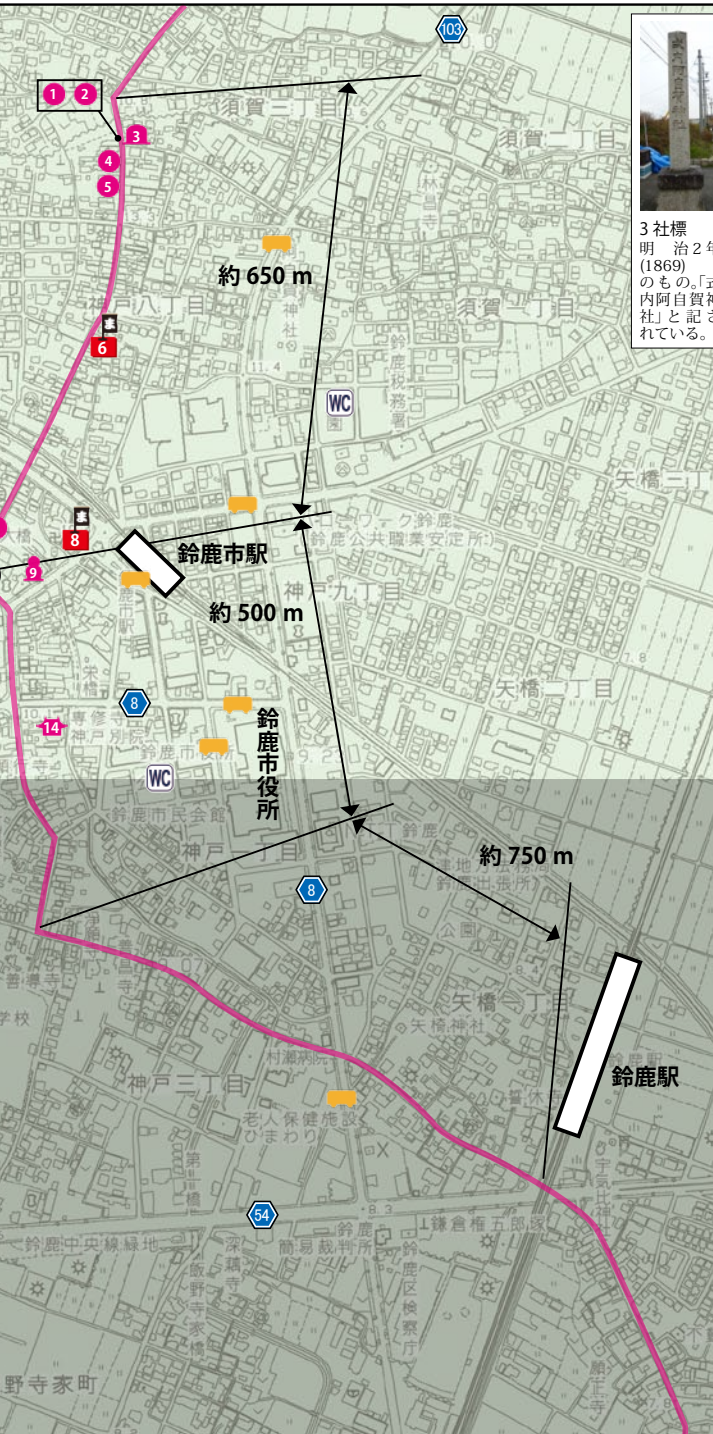
12 ガラクタ館 菓子処
近江屋



14 真宗高田派別院
門前に「明治天皇行在所跡」の碑がある。



15 願行寺
真宗高田派。



3 社標
明治2年(1869)のもの。「式内阿自賀神社」と記されている。



4 旅館「かみ亭」
今も旅館を続ける。



5 連子格子の家
他にもいくつか残る。



6 浅野弥衛記念家



8 能面博物館
(山田屋洋品店内)



9 宝珠山地蔵院
「東海道中膝栗毛」の中で「安穩に火よけ地蔵の守るらん、夏のあつさも冬の神戸も」と詠まれた。もとは街道の東側にあった。



10 札の辻
高札場があったので札の辻と呼ばれる。「距津市元標五里参拾四町参拾七間」と刻んだ神戸道路元標が立つ。ここにあった道標は観音寺内に移されている。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他
文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

この部分は
10～11 ページを
ご覧ください

(3) 神戸ーB (鈴鹿市須賀町～肥田町)



1 龍光寺
「神戸の寝釈迦」で有名。



2 坐忘亭



3 山口誓子句碑



4 倉田行人子句碑



5 種田山頭火句碑



6 緑雨亭



7 五木文庫 鈴鹿



8 萬福寺
真宗大谷派。



9 旧神戸中学校正門
旧神戸中学校が創立された
2年後の大正11年(1922)に
建立された。



10 神戸城址
伊勢平氏の子孫岡氏の一族
神戸氏が戦国時代の天文19
年(1550)にこの地に城を築
いた。県指定史跡。



11 浄願寺
神戸高校東側。真宗大谷派。



12 道標
元禄2年(1699)
のもの。「右い
なふ道」「左
なるこ道」と
刻まれている。
現在、常夜燈
と同じ小公園
にある。



13 常夜燈
嘉永2年(1849)建立。
明治18年洪水で倒
れ、半部分だけが旧
熊野権現跡の小公園
にある。

約 650 m

約 500 m

約 750 m

この部分は
8～9 ページを
ご覧ください



14 常夜燈
昭和5年建立。小公園の常夜
燈を偲んで、地子町の人々
が建てた。



15 佛庄総本店 仏壇工房



16 大日堂跡
「大日如来道」の道標から右
へ100 mのところ。露坐の大
日像がある。



17 円柱
大日堂の前にある。「寛治
元年(1087)鎌倉権五
郎之塚」と刻まれている。
円柱の前にあった小池に
は片目の鯉がいて、その
水は眼病に効き目があっ
たというが今は涸れてし
まっている。



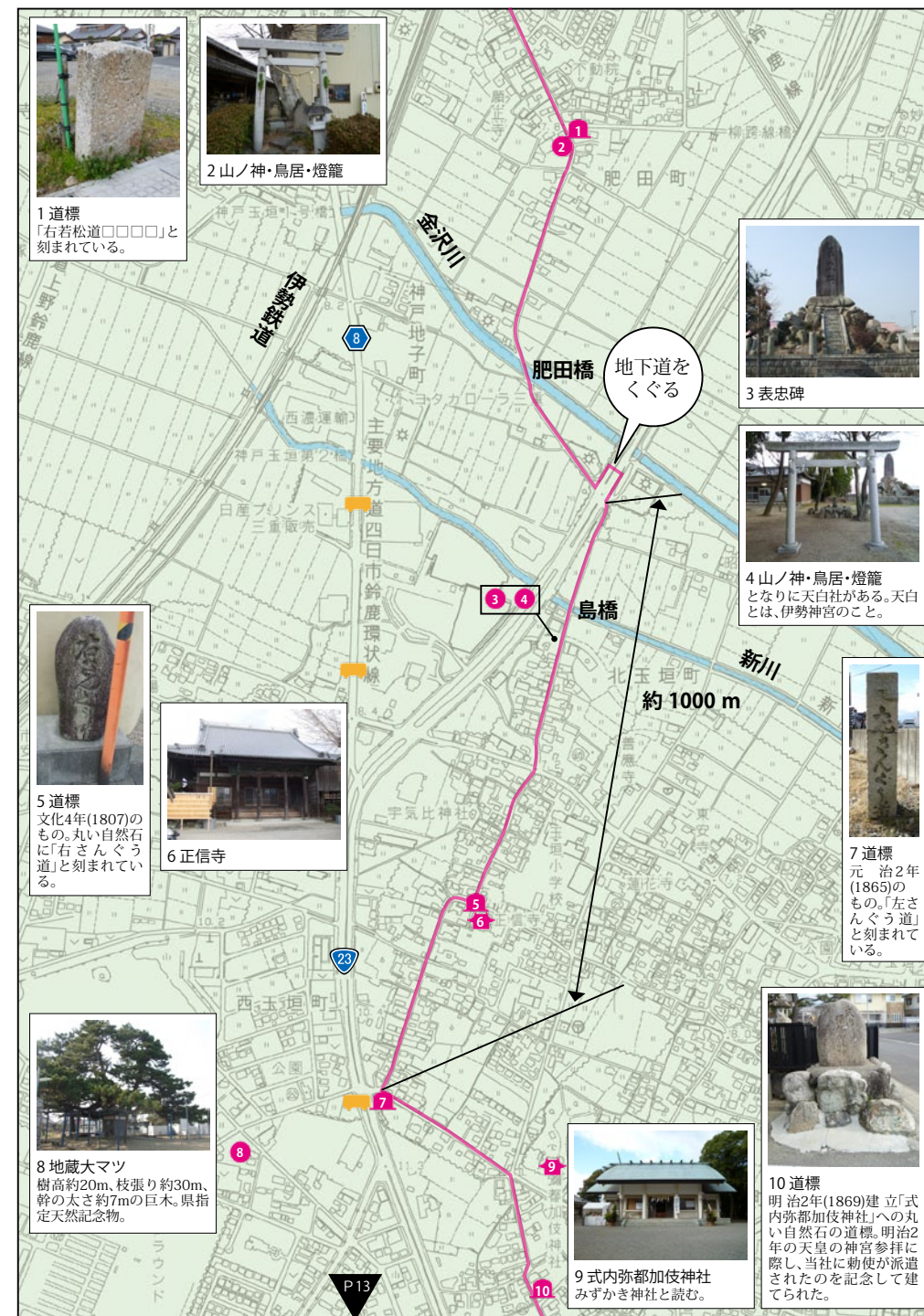
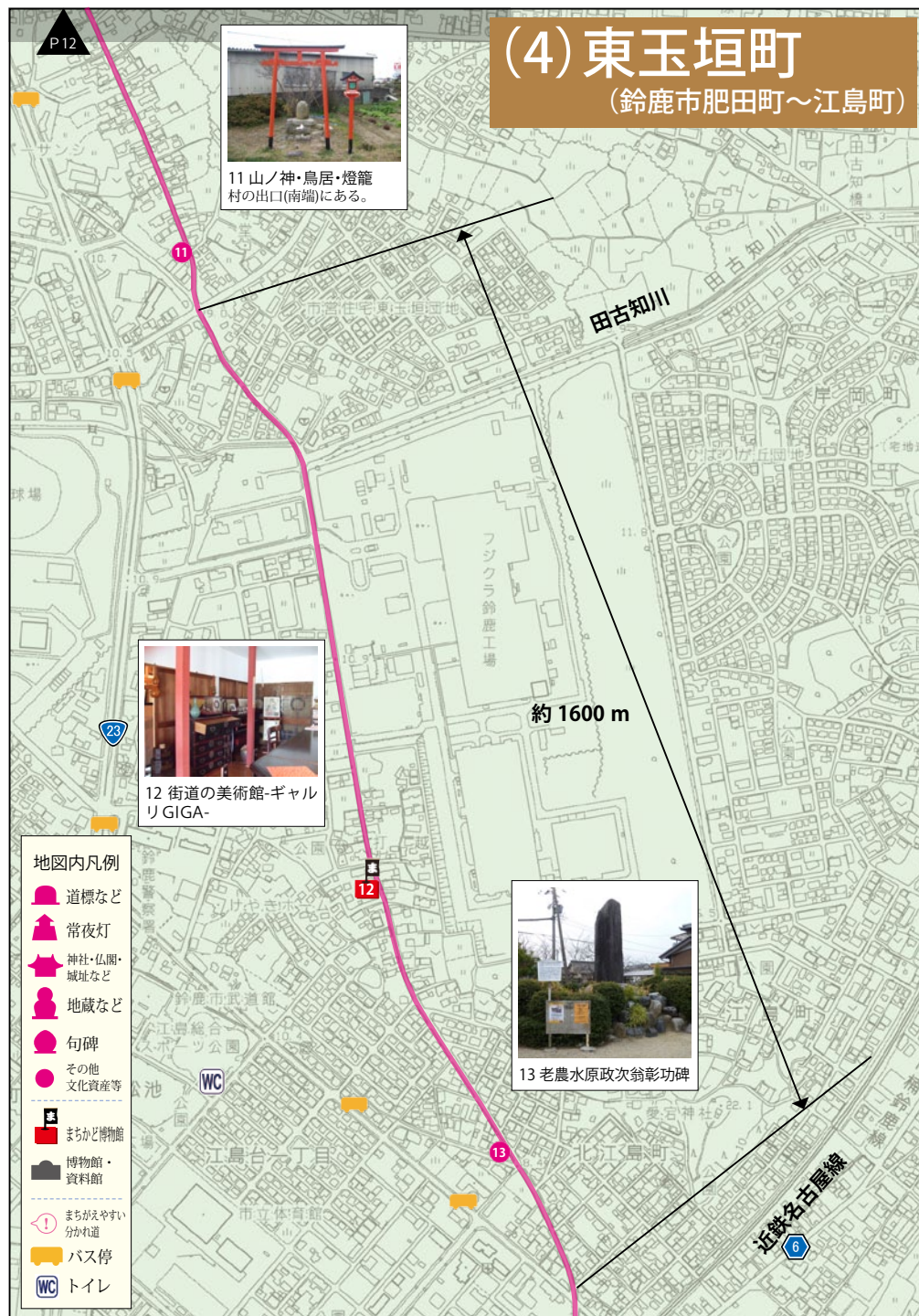
18 道標
嘉永4年(1851)
建立。「大日如
来道」と刻まれ
ている。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜燈
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



19 山ノ神・鳥居・燈籠
村入口左にある。



(5) 白子 (鈴鹿市江島町～白子町)



11 青龍寺
真宗高田派。積荷廻船問屋の墓や能書家久住五左衛門三疑の筆塚がある。境内は大宝院であった。現在大宝院は江島神社に合祀されている。



10 山口波津女句碑



9 山口誓子句碑



8 雲心院
江島領主小笠原氏の菩提寺。現在は公民館のようになっている。寺の西側には街道に面して小笠原氏の陣屋があった。



15 語らい館よこた



14 懐古絵はがき処



13 伊勢型紙資料館



12 旧河芸郡役所跡の碑
明治26年から大正12年まで河芸郡役所がおかれていた。現在は公園となっている。



18 モニメント刻の軌跡



17 白子港
江戸時代、紀州徳川家の領地で、紀州藩から江戸への荷物を運ぶ船の母港として、伊勢湾岸で最も賑わった港。



16 小原木本舗 大徳屋長久



20 久留真神社
くるま神社と読む。元、福德神社。和田橋から100mの街道右にある。



19 山口誓子句碑



23 鈴鹿墨・進誠堂



22 唯信寺
真宗高田派。



21 道標
昭和12年建立。「さんぐう道」「神戸四日市道」と刻まれている。



2 役行者神変大菩薩
北の端の地蔵の東にある。



4 芙蓉館・勢松丸資料館



3 江島宮八幡神社



5 社標
大正15年建立。江島神社の社標。



1 北の端の地蔵
鎌倉時代のもの。近鉄名古屋線の踏切を越えた所にある。



6 常夜燈
文政3年(1820)建立。若宮八幡(江島神社)へ寄進されたもの。江戸時代、このあたりは海岸に近く、白子港に出入りする廻船の目印や、灯台の役目を果たしたという。



7 江島本町を行く街道
ところどころに連子格子の家が残る。

約 1550 m

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他
 - 文化遺産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

道標のある角を左へ。

白子高校

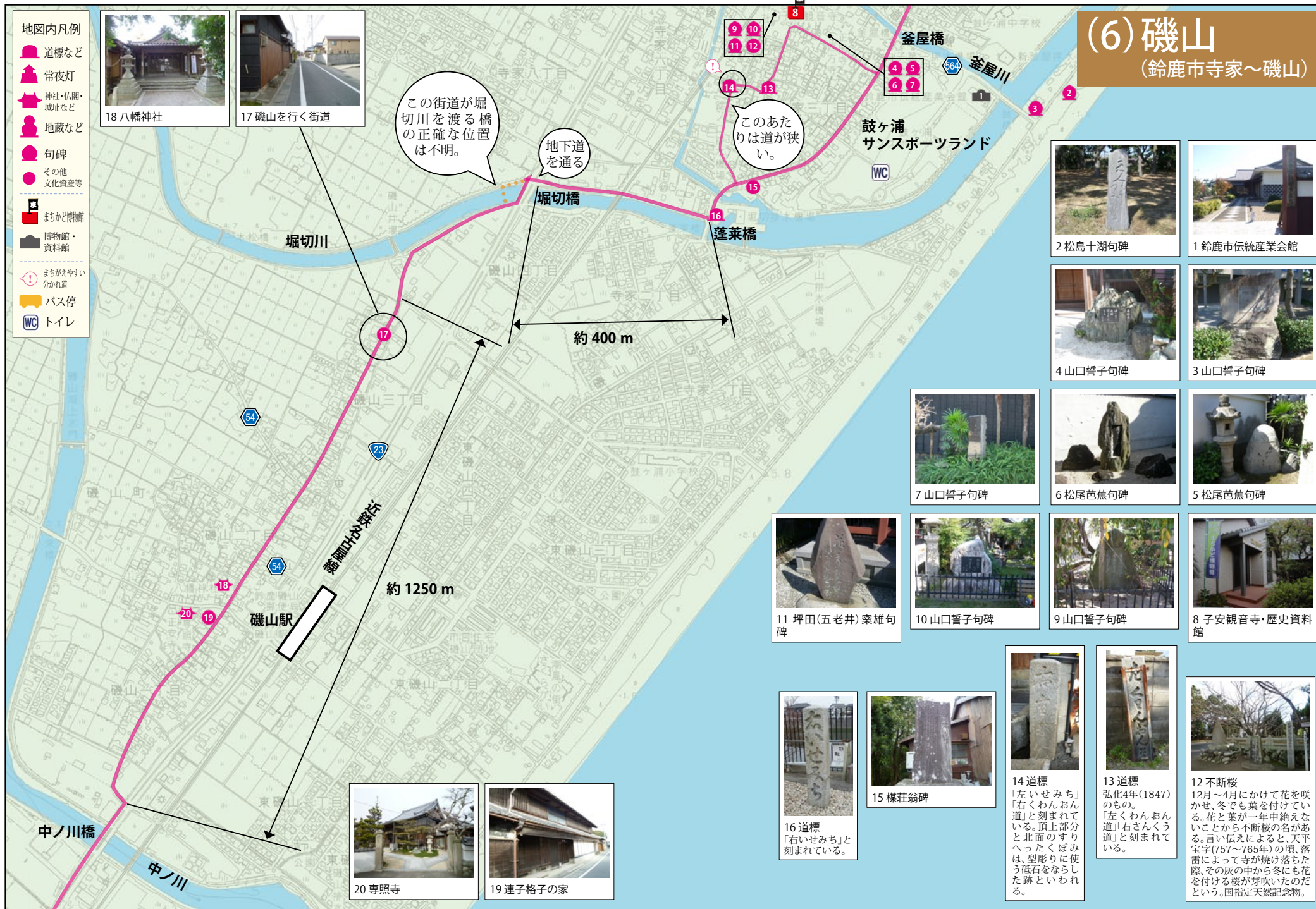
白子駅

鈴鹿白子本町郵便局

白子港

和田橋

鼓ヶ浦駅



(7) 東千里 (津市河芸町東千里～上野)



- 地図内凡例**
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(8) 中瀬

(津市河芸町上野～中瀬)



9 松林寺



7 地蔵



6 高山地蔵尊

街道の右側にある。ここは、上野城時代に罪人を処刑する場所であったといわれる。また、地蔵は処刑された武士の霊を慰め、この地で不慮の災害にあった人の菩提を弔うために建てられたという。



10 中瀬八幡神社
明治41年、上野神社に合祀され、昭和26年に上野神社より分祀。中瀬金城の守護神。



8 中瀬に行く街道



11 ち神神社
もとは地の神を祀っていたと思われるが、今では痔の神となっている。

津市河芸庁舎



12 上野城址への登り口

上野簡易水道水源池



1 満流寺
真宗高田派。高田本山の直末寺。



2 光勝寺
臨済宗妙心寺派。分部光嘉が早世した光勝のために創建。



3 内藤まさを句碑

約 550 m

横断歩道を渡る

朝陽中学校

河芸町交番

河芸駅

河芸町中瀬

約 1000 m

横断歩道を渡る



13 上野村元標跡
かつて、この場所を上野村元標が建てられていた。



5 上野村元標
大正2年に三重県が建てた。津市河芸中央公民館に保管中。



4 道標
元禄3年(1690)のもの。津市河芸中央公民館の庭に保管。「右しろこかい」を刻まれている。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他
- 文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



14 八雲神社
豊漁と安全を祈願する約450年続く「ざるやぶり」神事が毎年7月15日に行われる。

(9) 栗真小川 (津市栗真小川町～栗真中山町)



7 常夜燈
文化3年(1806)の太神宮常夜燈。観音寺前には「金比羅大権現」「太神宮」「権現」と刻まれている。



6 地蔵堂
観音寺の境内。



5 観音寺
十一面観音を祀る。



8 逆川神社
栗真小川の南端。



9 栗真中山に行く街道



11 大円寺
入り口の少し南に高札場があったという。



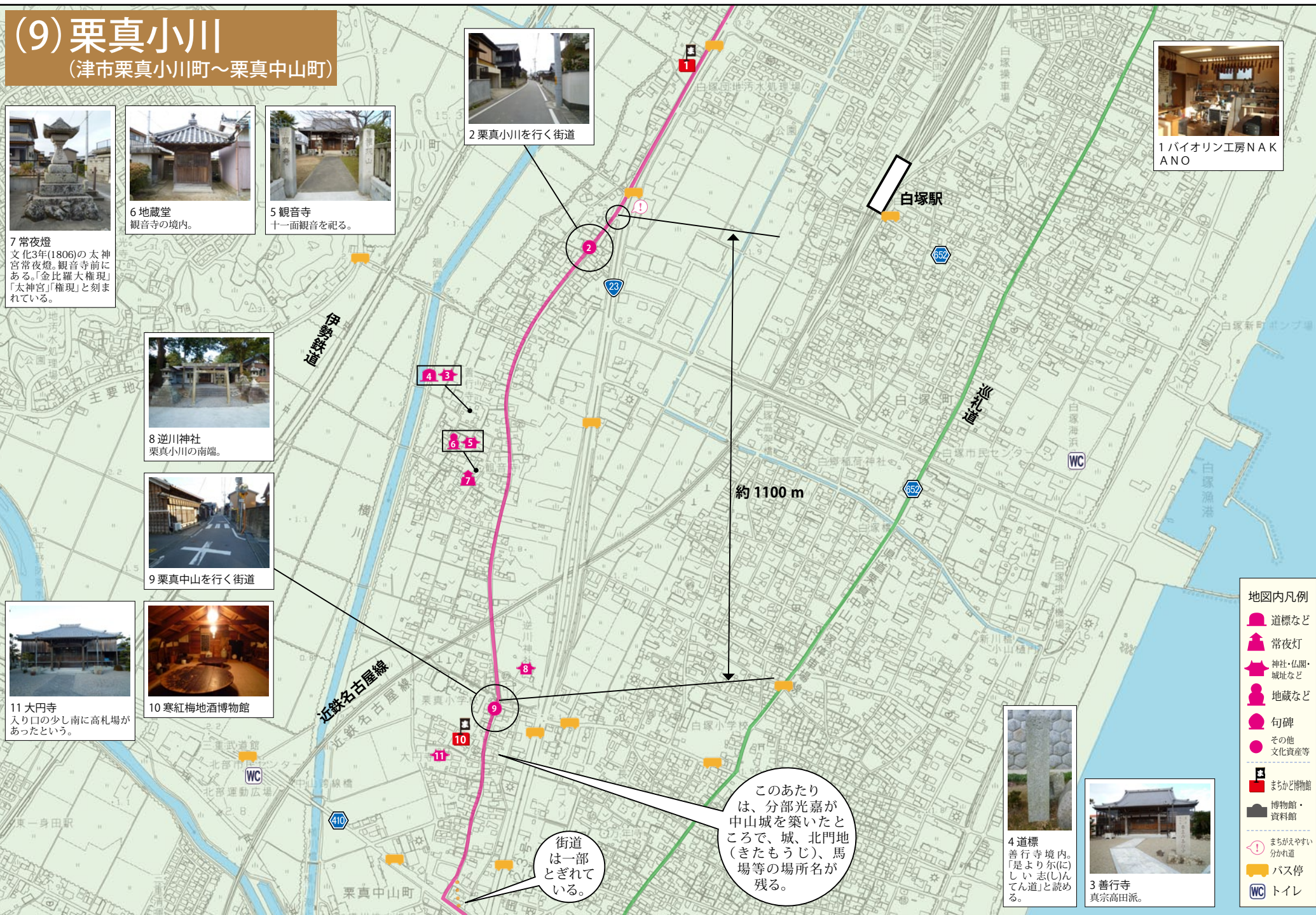
10 寒紅梅地酒博物館



2 栗真小川に行く街道



1 バイオリン工房 NAKANO



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



4 道標
善行寺境内。「是より尔(に)しい志(し)んでん道」と読める。



3 善行寺
真宗高田派。

(10)江戸橋
(津市栗真町屋町～上浜町)



2道標
巡礼道との道
分に立つ。「上
野 白子 神所
四日市道」「木
白塚豊津道」と
刻まれている。



1 常夜燈
天保10年(1839)建立
巡礼道との追分のとこ
ろにある。「両宮常夜
燈」等と刻まれている。



4巡礼道との追分
栗真町屋の集落から500m
南の三叉路。



3 名残松



5 栗真町屋に行く街道



Page 10 of 10



8 江戸橋

江戸に向かう藩主の見送りもここまでということで江戸橋と命名されたという。



6 常夜燈
嘉永4年(1851)のもの。孟夏の常夜燈。自然石が使われている。



9 常夜燈
安永6年(1777)に
建立された。伊勢街
道と伊勢別街道と
の追分。伊勢別街道
の終着点。津市指定
文化財。



10道標
明治22年
に再建さ
れた。「左
高田本山
道東京占
とをりぬ
け」と刻
まれている。



11 蔵のある家



13 深正寺
参道の部分は、当時人家で埋められていた。



15 光蓮寺



12—乘寺



14 酢屋・阿部
津市指定文化財。醸造業の大
店。このあたりは、醸造業を
営む者が多かったという。

(11) 栄町 (津市上浜町～愛宕町)



11 三重県立美術館



10 密蔵院
伊勢西国三十三所観音霊場
第16番札所



8 三重平和祈念館



9 三重県立博物館



12 常夜燈
天保元年(1830)のもの。もとは塔世橋の南詰にあったが、現在は津信楽公園に移設されている。「部田(へた)の常夜燈」という。



7 善徳寺



13 アトリエ・テリー(銀粘土とマンドリンの工房)



20 旧塔世橋高欄
昭和9年(1934)に建設された旧塔世橋の高欄が移築保存されている。

安濃川は、もとは塔世川と呼ばれ、当初は軍事的目的から橋が架けられなかったが、延宝三年(1675)に架橋された。幕末までは土橋で、河原へ一度降りて橋を渡った。

小丹神社の拝殿。

この辺り一帯は、田野が広がっていたが、寛文年間(1661～1672)頃より人家が建ち並んだ。

このあたりに杓子餅という名物餅を売る店があったという。

迂回路塔世橋を渡る。

約400 m

約500 m

約250 m



14 北向地藏
まわりに多数の風化した地藏がある。



15 目洗地藏
山門北の道沿い。



16 四天王寺山門
津市指定文化財



17 四天王寺
境内に薬師堂や太子堂がある。寺記に「用明天皇の御宇に聖徳太子物部守屋を討ちて四箇所の天王寺を創建せらる。本寺即ちその一なり」とある古刹。隣にある幼稚園は、昭和20年の戦災で失った加賀跡の一角に建てられた。



18 菊池二日坊句碑



19 大橋裸木句碑



1 上浜町に行く街道



2 小丹(おに)神社
おに神社と読む。もと江戸橋北詰の東方にあったが、水害で転々とし、ここに鎮まった。街道沿いに拝殿がある。



4 茨木素因句碑



3 積善寺



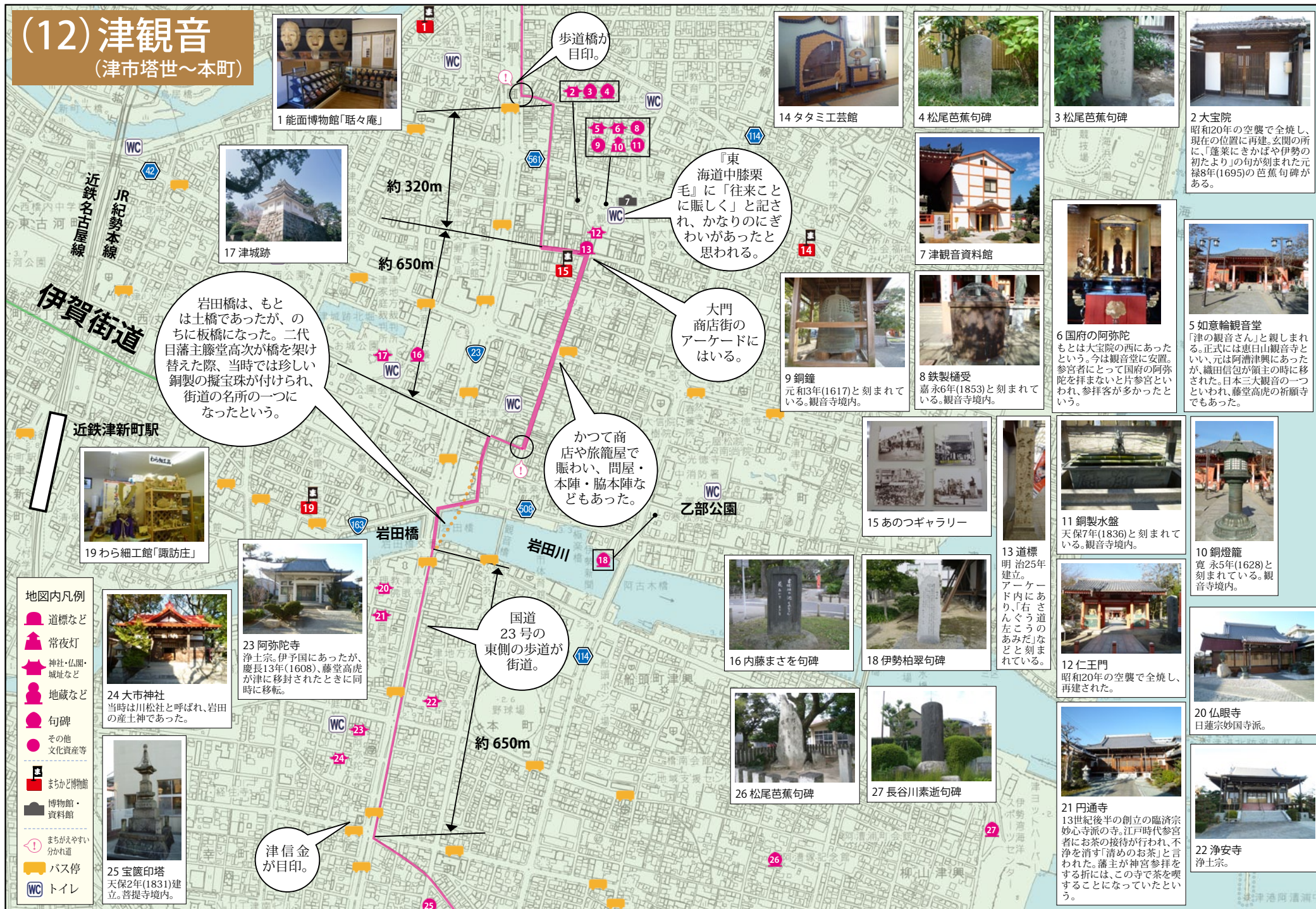
6 建築道具館



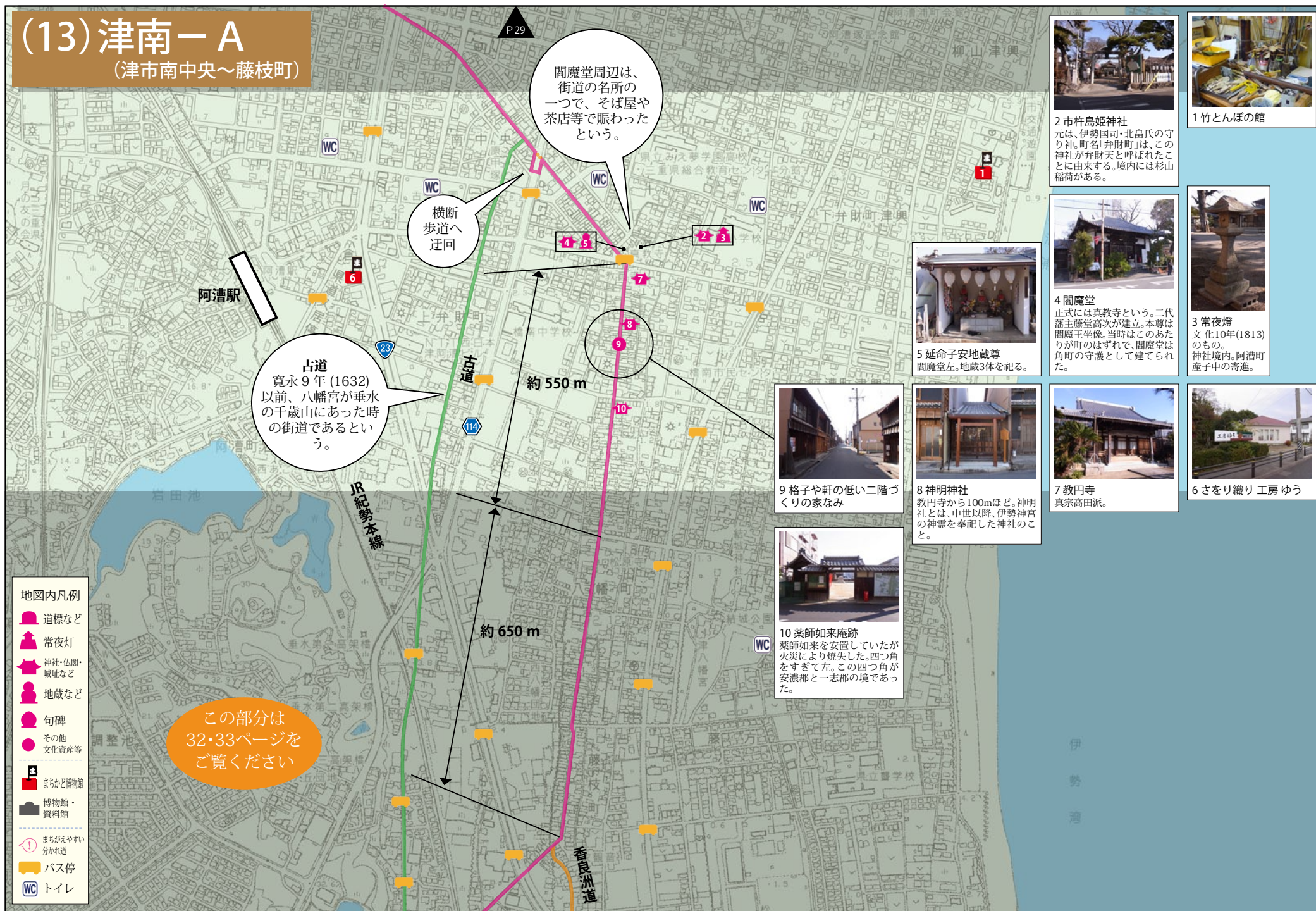
5 ガラス工房MIKI

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他
 - 文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

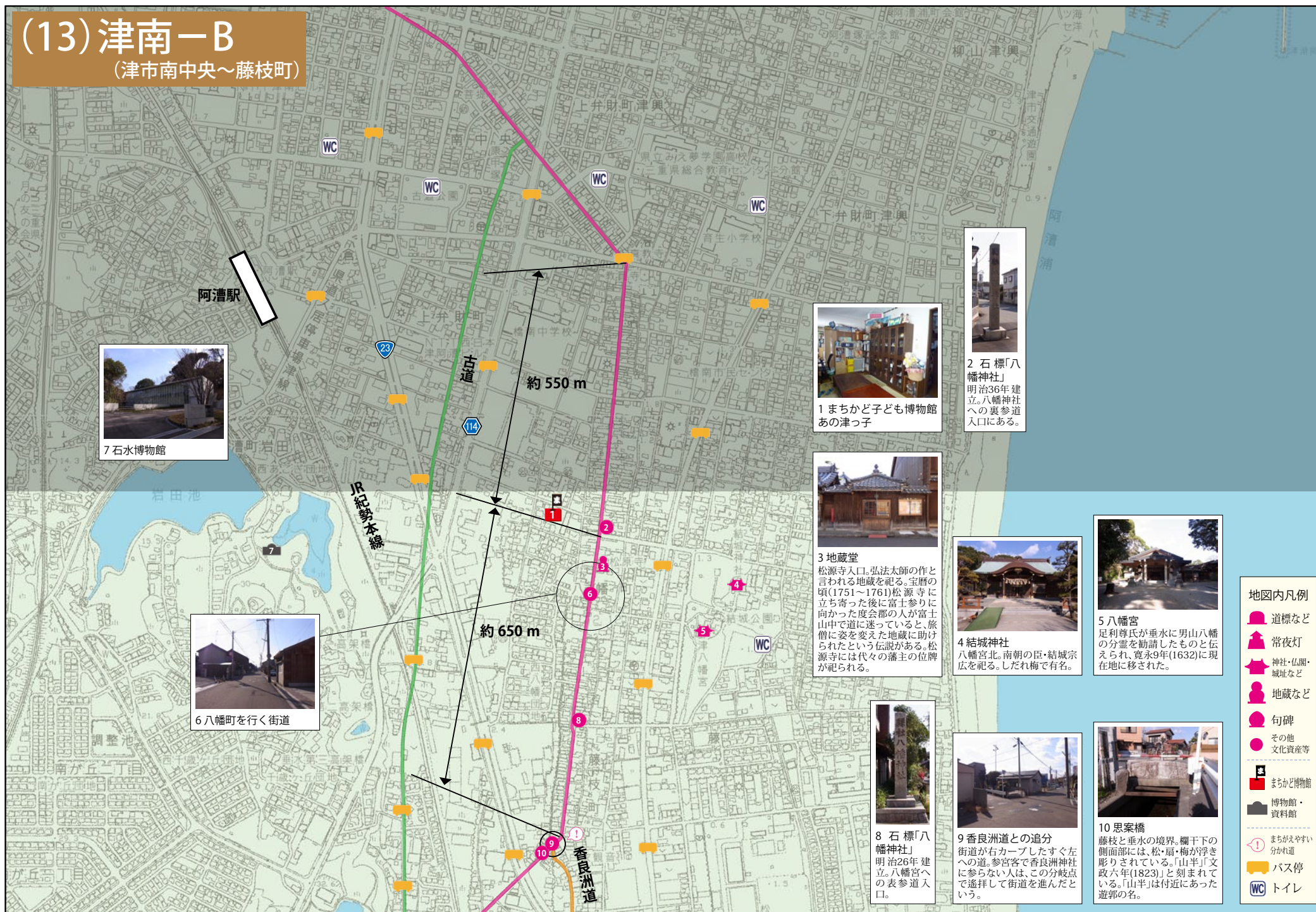
(12) 津観音 (津市塔世～本町)



(13) 津南ーA (津市南中央～藤枝町)



(13) 津南-B (津市南中央～藤枝町)



7 石水博物館



6 八幡町を行く街道



1 まちかど子ども博物館
あの津っ子



3 地藏堂
松源寺入口。弘法大師の作と
言われる地蔵を祀る。宝暦の
頃(1751～1761)松源寺に
立ち寄った後に富士参りに
向かった度会郡の人が富士
山中で道に迷っていると、旅
僧に姿を変えた地蔵に助け
られたという伝説がある。松
源寺には代々の藩主の位牌
が祀られる。



8 石標「八幡神社」
明治26年 建立。八幡宮へ
の表参道入口。



4 結城神社
八幡宮北。南朝の臣・結城宗
広を祀る。しだれ梅で有名。



9 香良洲道との追分
街道が右カーブしたすぐ左
への道。参宮客で香良洲神社
に参らない人は、この分岐点
で選択して街道を進んだと
いう。



5 八幡宮
足利尊氏が垂水に男山八幡
の分霊を勧請したものと伝
えられ、寛永9年(1632)に現
在地に移された。



10 思案橋
藤枝と垂水の境界。欄干下の
側面部には、松・扇・梅が浮き
彫りされている。「山半」「文
政六年(1823)」と刻まれて
いる。「山半」は付近にあった
遊郭の名。

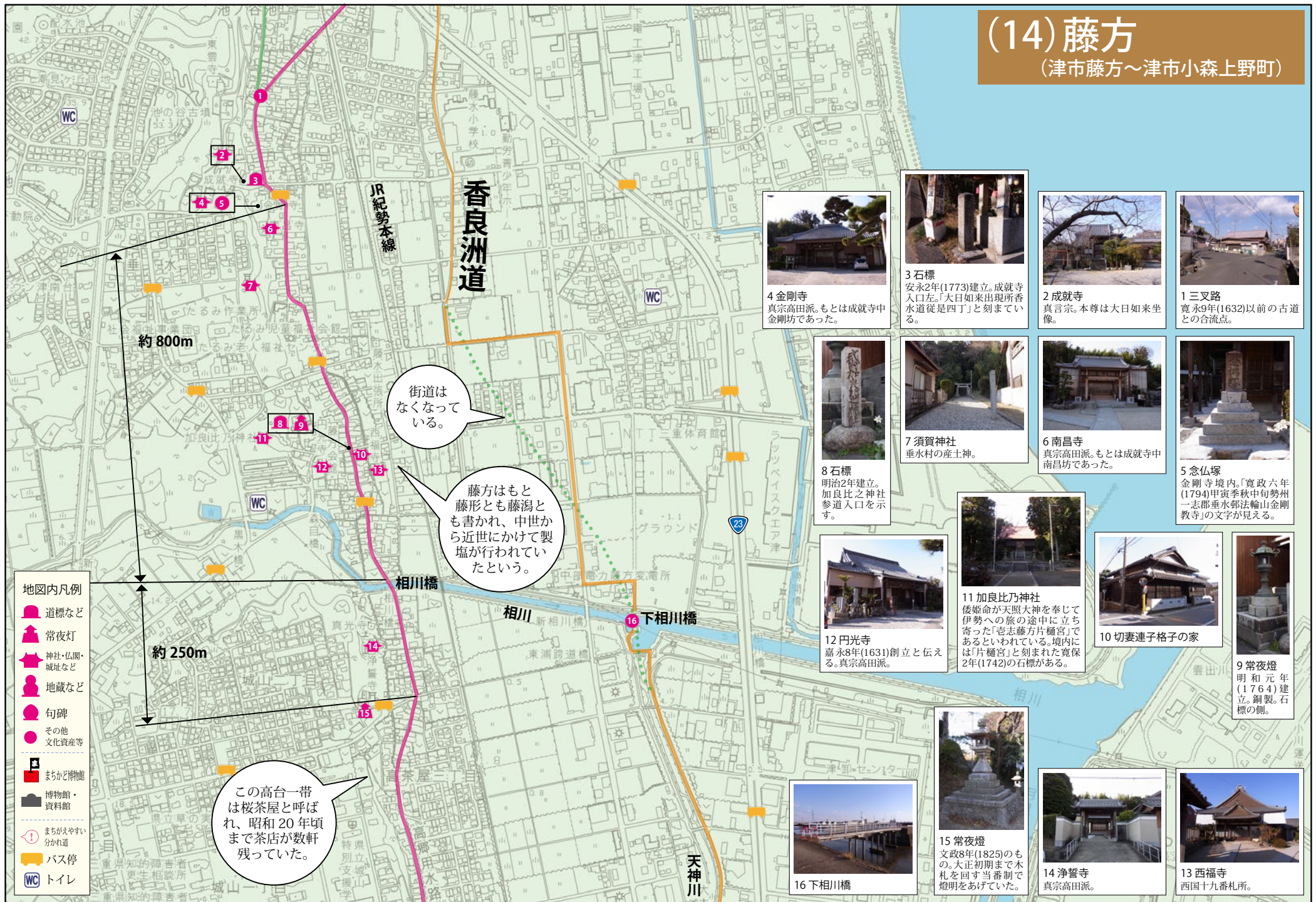


2 石標「八幡神社」
明治36年 建立。八幡神社
への裏参道入口にある。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

(14) 藤方 (津市藤方～津市小森上野町)



(15) 高茶屋小森町 (津市高茶屋上野町～高茶屋小森町)



(16) 島貫

(津市雲出島貫町～松阪市小野江町)



1 島貫に行く街道



2 山ノ神二基



3 横の大木
山ノ神の横。



4 碑「史蹟 明治天皇島貫御小休所跡」
集落中央、ここには明治期まで、柏屋があった。



5 円福寺
そてつは津市指定天然記念物。



6 道標
「神明道」と刻まれ、上部が少し欠けている。神明道は雲出長常村の神明社へ至る道。



7 常夜燈
天保5年(1835)のもの。かつては渡し場口にあったもので、雲出橋の架け替えに伴い現在の位置に移設された。宮立型。



8 常夜燈
寛政12年(1800)のもの。橋の南詰にある。昭和19年の東南海大地震で崩壊し、再建。宮立型花崗岩製。



9 本楽寺
慶長8年創建。来迎阿弥陀如来立像を安置。



10 貴船神社



11 松浦武四郎生家
北海道の名付け親。家の前に碑が立つ。松阪市指定史跡。



12 松浦武四郎記念館

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他
文化遺産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

かつて、
ここには県天然記念物の島貫の松があったが、伊勢湾台風で倒れた。現在碑のみが残る。根まわりが2.6mあったという。

階段を
おりる

このあたり
には渡海屋、柿屋、樽屋等の旅籠があった。

約 900m

約 1200m

香良洲道

雲出川

雲出大橋

P41

P42

P47

JR 紀勢本線

(18) 曾原-A (松阪市肥留町・星合町～曾原町)

この部分は
44～47 ページ
をご覧ください

JR紀勢本線

約 550m

約 600m

約 350m

奈良街道

香良洲道

香良洲道

香良洲道

約 1000m

約 700m

約 1000m

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



7 海運寺
かいうんじと読む。



8 八雲神社
県内でも類例の少ない北斗七星社が祀られている。元禄・寛文期の石燈籠や石手水鉢がある。境内には元禄2年(1689)建立の鳥居や、秋葉山・金比羅山を祀る石造物、庚申塔、山ノ神がある。



9 松養寺
天台真盛宗。



10 富士権現
富士権現を祀る自然石。富士登山の際、碧川で沐浴祈願の後出発するしきたりが残っていた。



11 碧川(あおかわ)橋



12 曾原に行く街道



1 明照寺
真宗高田派。



2 波氏神社
明照寺南。天棚機命他六坐を祀る。境内には、元禄11年(1698)に建立された江戸氏子寄進の鳥居、正徳年間(1711～1715)の石燈籠、自然石の庚申、室町末期の六地藏石がある。



3 石燈籠
波氏神社境内。

街道は
なくなっ
ている。

星合から笠松に
至る道の東方一帯
「星合の浜」と呼ばれ、
五主新田が開発される
までは白砂青松の浜
として知られてい
た。



4 擬宝珠の橋
鵜(かささぎ)橋という。



5 石碑
擬宝珠の橋の南。大伴家持の詠んだ「かささぎの…」の歌をこの地にあてた地元民が建てたもの。

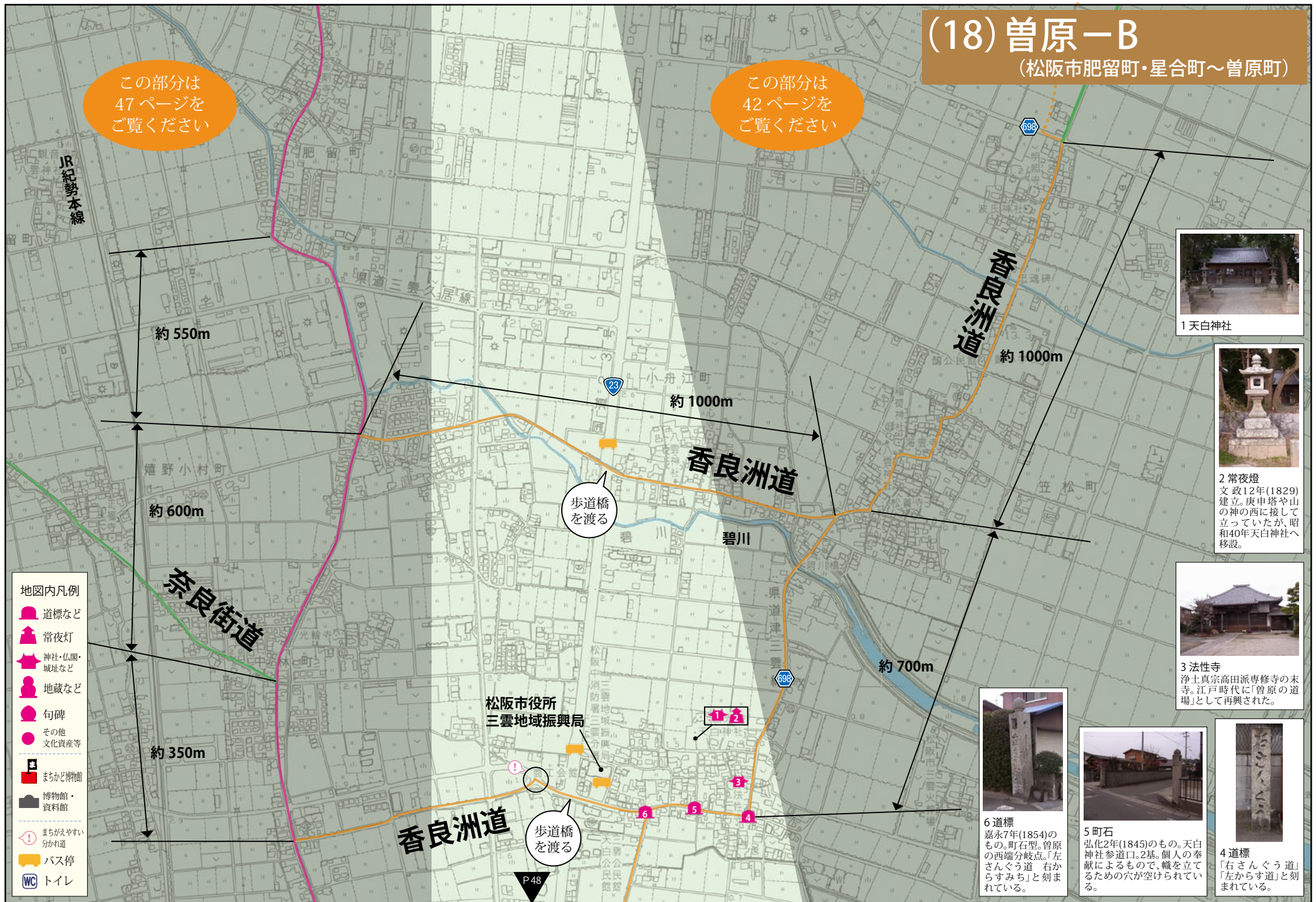


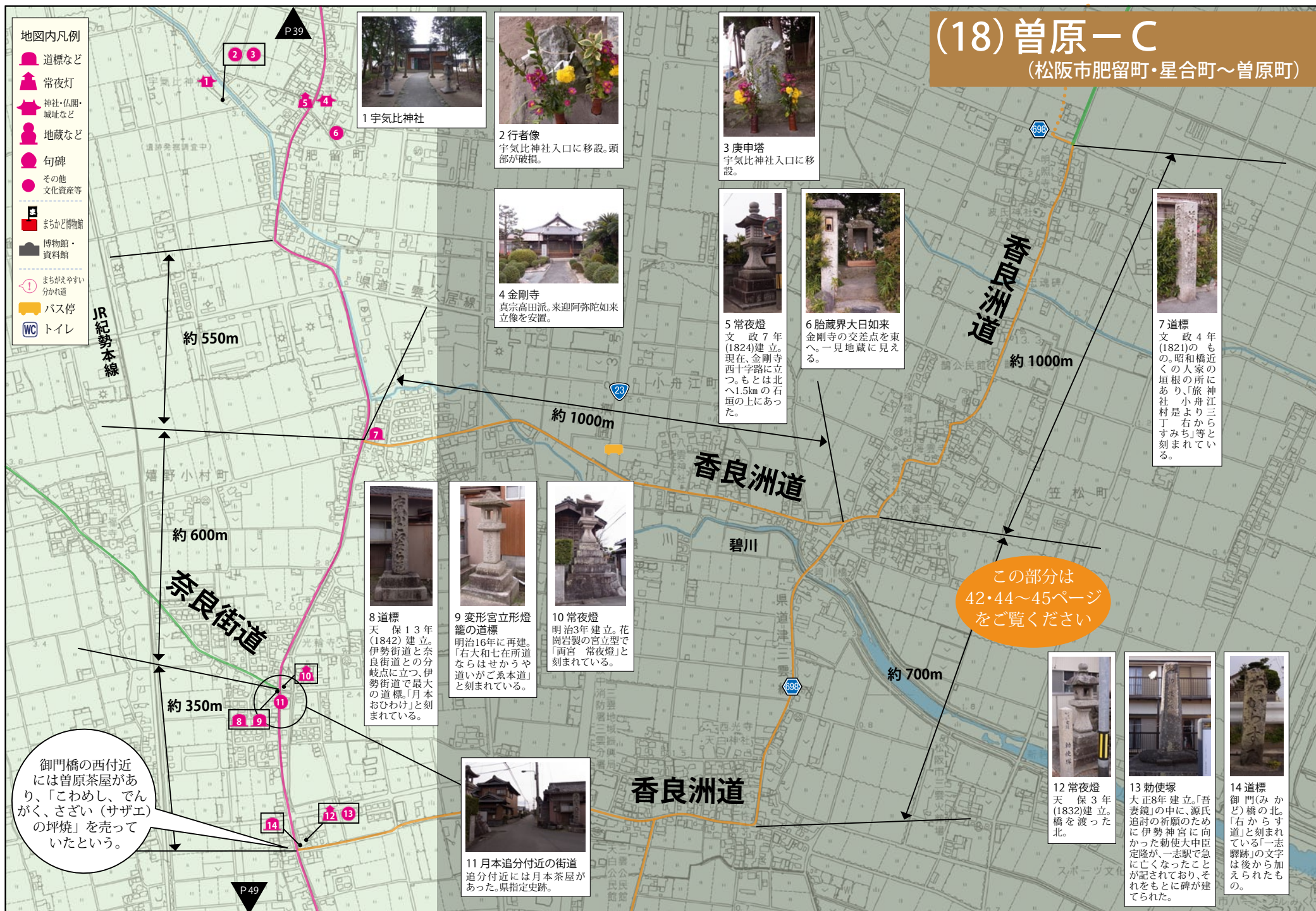
6 星合から笠松に至る道の
東方一帯
「星合の浜」と呼ばれ、五主新
田が開発されるまでは白砂
青松の浜として知られてい
た。

(18) 曾原一B (松阪市肥留町・星合町～曾原町)

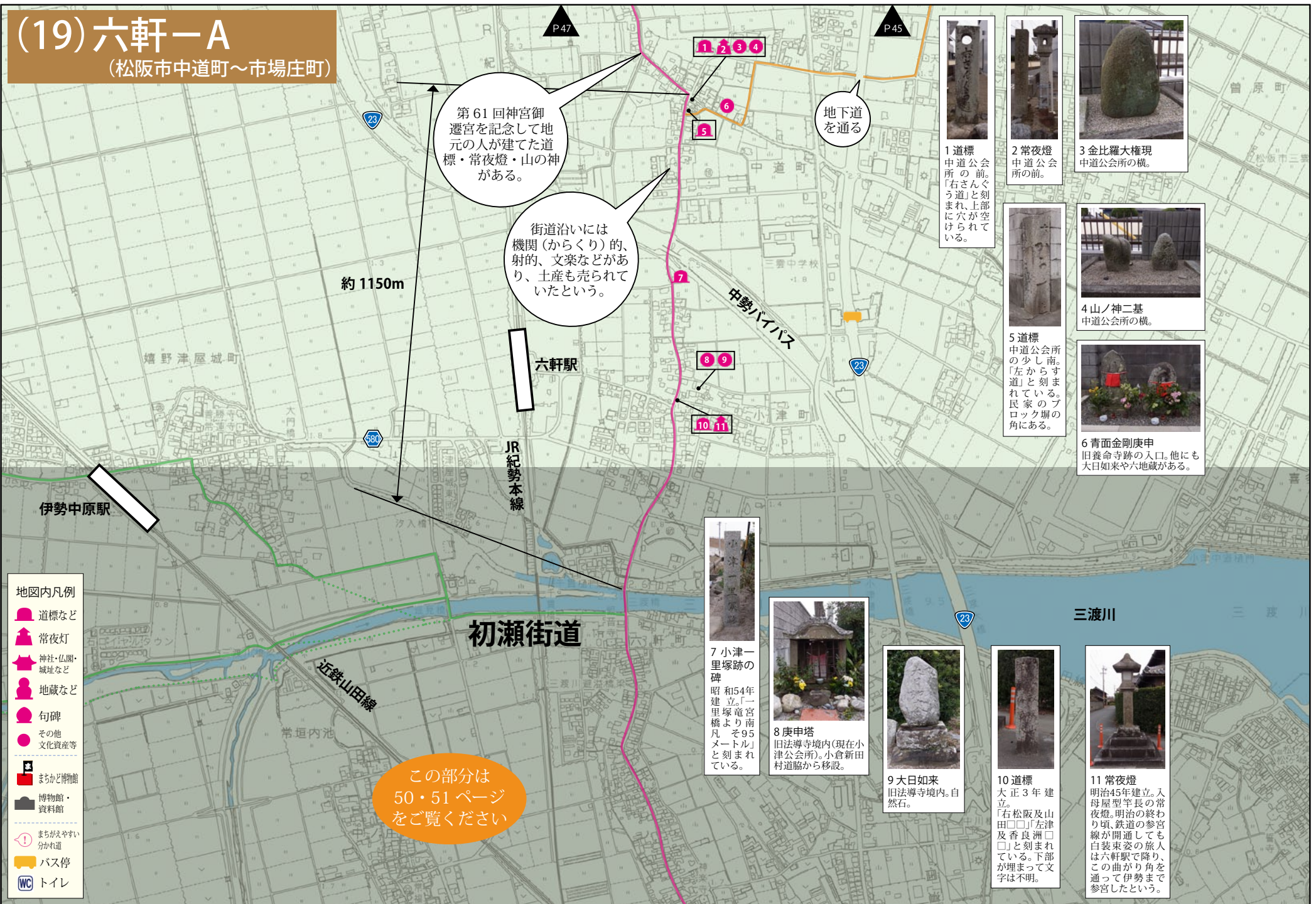
この部分は
47 ページを
ご覧ください

この部分は
42 ページを
ご覧ください





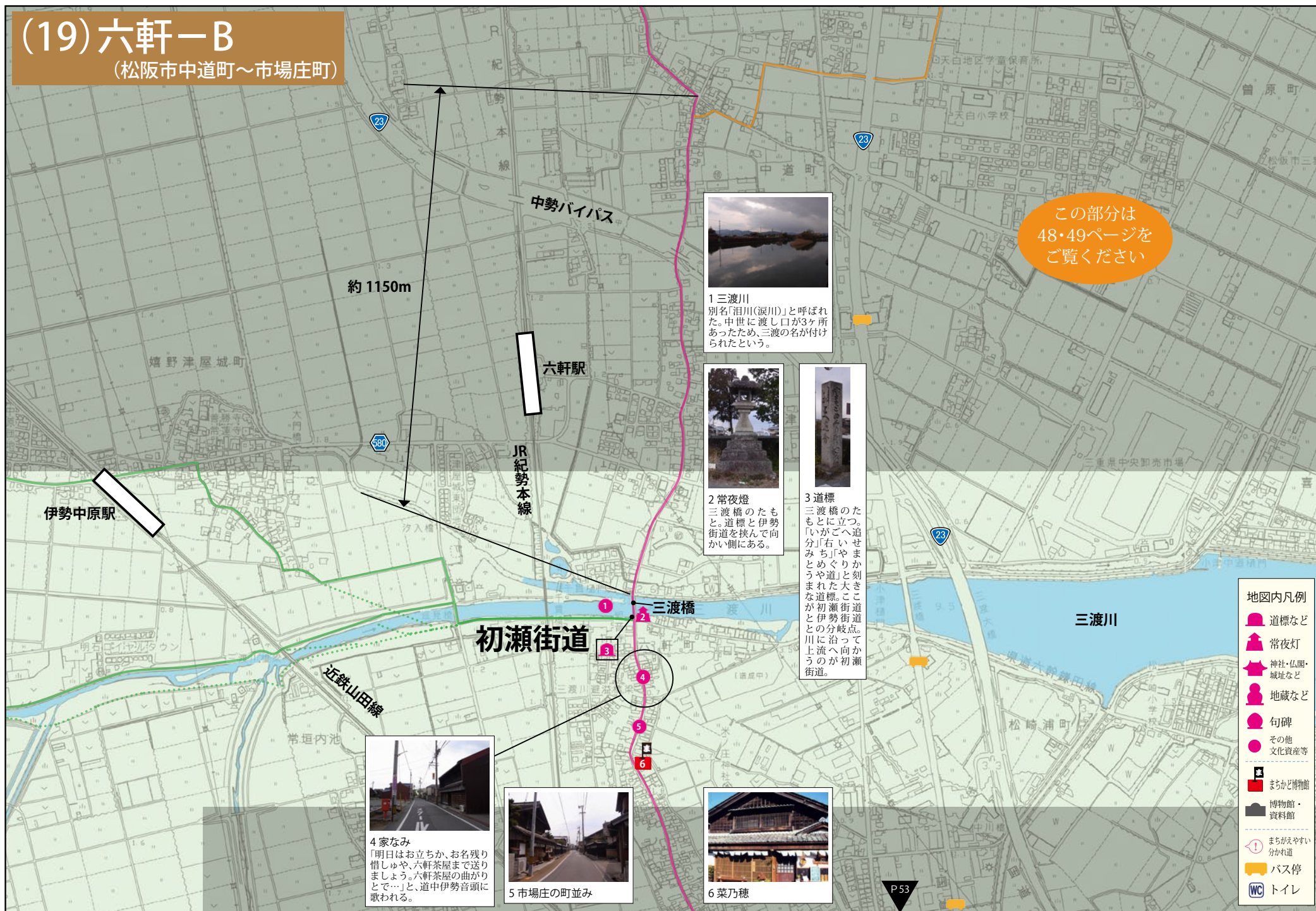
(19)六軒一A (松阪市中道町～市場庄町)



地図内凡例

- 道標など
- 常夜燈
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

(19) 六軒一B
(松阪市中道町～市場庄町)



(20) 久米一A (松阪市市場庄町～塚本町)



1 常福寺
曹洞宗。本尊釈迦如来坐像を安置。



2 石地藏
常福寺の墓所の一角にある。常福寺には、村内の各所から移動させたと思われる石仏や石地藏が置かれている。



3 庚申
常福寺の墓所の一角にある。2体あり、それぞれ別々に祀られていた。



4 石仏
常福寺の墓所の一角にある。



5 常夜燈
天保7年(1836)のもの。「常夜燈両宮」と刻まれ、もとは街道沿いにあったと思われる。



6 常夜燈
宝永5年(1708)のもの。「宝永五戊子天」「二月吉日」と刻まれている。



7 常夜燈



8 道標
宝暦元年(1751)建立。米之庄神社への分岐点、街道東側にある。「忘井之道」と刻まれている。



9 忘井
道標から東へ100m。現在、井戸は埋まっている。標石には「千載集」の歌が刻まれている。松阪市指定史跡



10 山ノ神忘井のそば。



11 常夜燈
文政5年(1822)建立。米之庄神社の社頭「永代両宮」と刻まれている。もとは忘れ井道標の傍らにあったと思われる。



12 神楽寺
曹洞宗。本尊釈迦如来坐像を安置。境内には村の入り口にあったと思われる庚申塔・青面金剛像がある。



13 切妻連子格子の家



15 久米に行く街道



14 お地藏さん
久米の集落入口。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他
 - 文化資産等

- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

この部分は
54・55ページを
ご覧ください

(20) 久米一B (松阪市市場庄町～塚本町)

この部分は
52・53ページを
ご覧下さい



1 行者堂
石造の役行者を祀る。



3 山ノ神二基



6 常夜燈
嘉永5年(1853)建立。江戸日本橋室町の人による建立。



8 長屋門のある家
なまこ壁の長屋門がある。



2 庚申堂
自然石の文字庚申を祀る。



4 道標
花崗岩製。「左さんぐう道」と刻まれている。



7 久米を行く街道



5 いおちかんのん道標
瑞龍寺の南江。松阪市岩内への近道を示す。



9 庚申堂
街道が鍵形になっているところの右。



10 山ノ神二基
庚申堂の向かい。



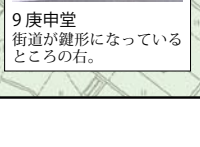
11 古川水神常夜燈
万延2年(1861)建立。三雲町久米との境から数百m東。



12 山ノ神二基
古川水神境内。小さい鳥居がそばにある。

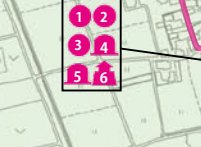


13 石柱
塚本地内の街道筋のところどころ。「塚本氏子中」と刻まれており、轆(のぼり)立に用いられたと思われる。



14 富士大権現
塚本と船江の境。塚本橋手前百々川沿いに右へ入ったところ。自然石。このあたりでは、村単位で富士講があった。

15 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



16 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



17 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



18 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



19 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



20 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



21 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



22 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



23 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



24 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



25 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



26 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



27 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



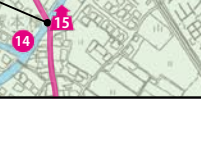
28 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



29 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



30 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



31 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



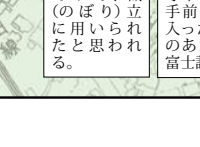
32 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



33 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



34 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



35 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



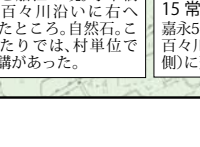
36 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



37 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



38 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



39 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



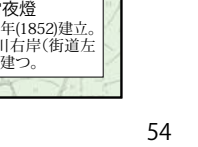
40 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



41 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。



42 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。

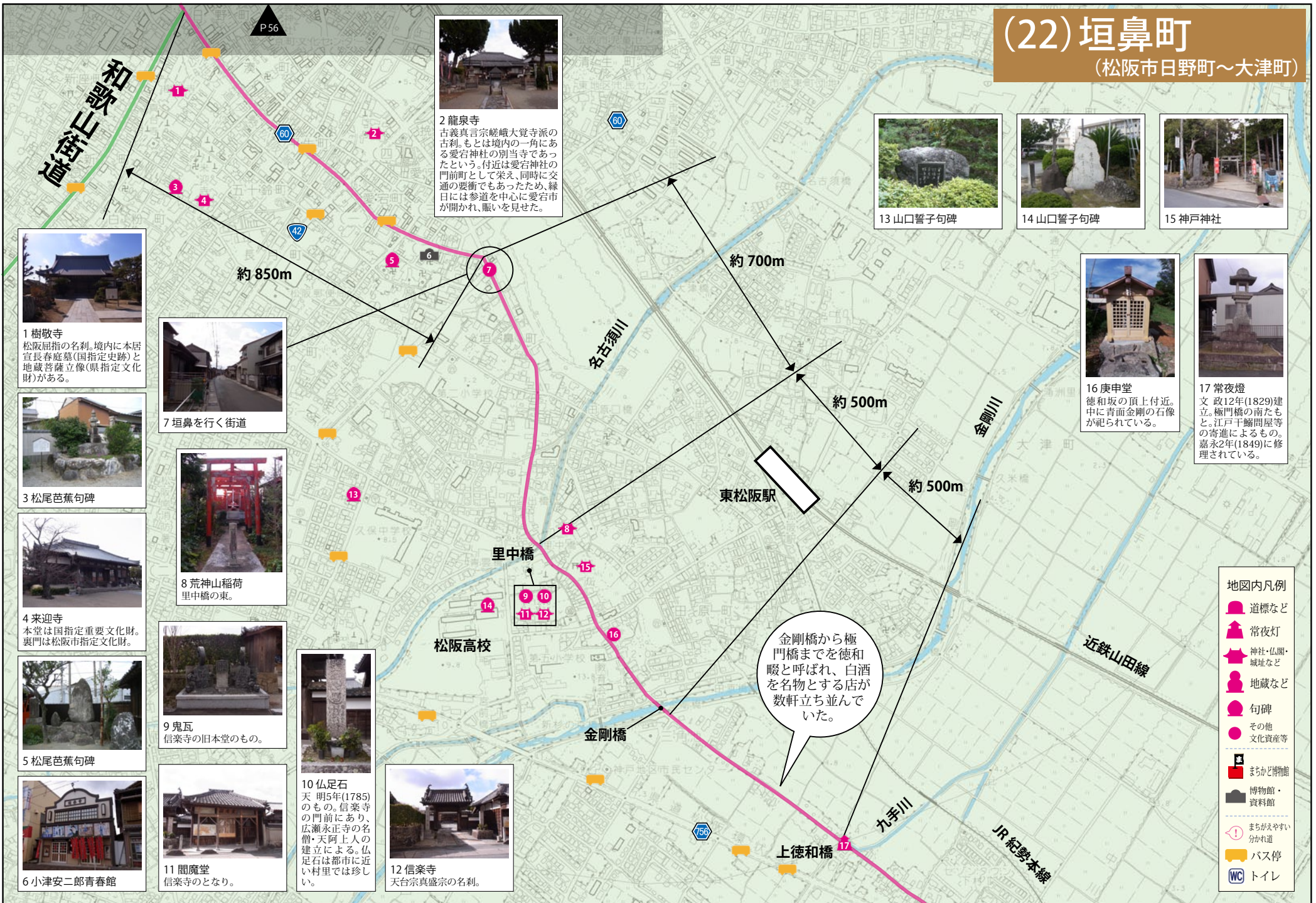


43 常夜燈
嘉永5年(1852)建立。百々川右岸(街道左側)に建つ。

地図内凡例
道標など
常夜灯
神社・仏閣・城址など
地蔵など
句碑
その他
文化遺産等

まちかど博物館
博物館・資料館
まちがえやすい分かれ道
バス停
トイレ

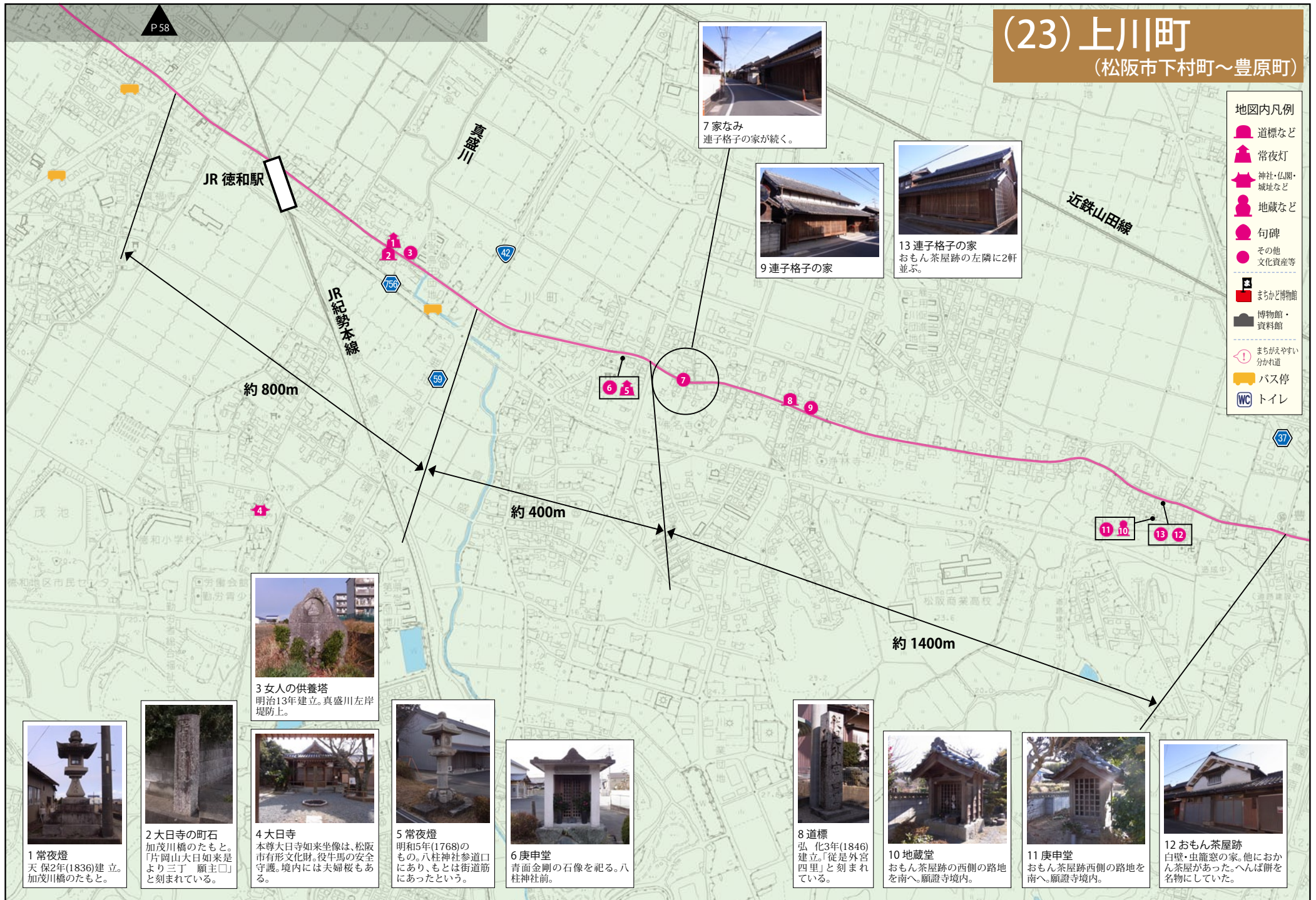
(22) 垣鼻町 (松阪市日野町～大津町)



(23) 上川町 (松阪市下村町～豊原町)

地図内凡例

-  道標など
-  常夜灯
-  神社・仏閣・城址など
-  地蔵など
-  句碑
-  その他文化遺産等
-  まちかど博物館
-  博物館・資料館
-  まちがえやすい分かれ道
-  バス停
-  トイレ



(24) 櫛田川

(松阪市豊原町～明和町竹川)



1 萬古不易館

櫛田川は、春・冬の渇水期には仮橋が架けられ、夏・秋の増水期には舟で旅人を渡し、それぞれ橋銭・舟銭を徴収していた。

櫛田橋

約 1300m

近鉄山田線

漕代駅

祓川橋

祓川

祓川橋

江戸初期以降、冬から春にかけての渇水期には仮板橋をかけ、夏から秋にかけての増水期には舟で旅人を渡し、それぞれ橋銭・舟銭を徴収していた。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



2 大櫛神社の碑
稲荷社の鳥居のわき。「式内大櫛神社」と刻まれた自然石の碑。隣には、かつてこのあたりで開かれていた櫛田大市のある。



3 家なみ



4 家なみ
昔の雰囲気伝える。



5 道標
文政2年(1819) 櫛田川堤防下。京商人の寄進。「左さんくみち 右けかうみち」と刻まれている。



6 標石
大正3年建立。旧櫛田村大字豊原。かつて櫛田川の渡し場があった所。



7 道標
文政13年(1816)のもの。渡し場付近から早馬瀬神社へ移設。縦に半分に分れており、向かって右側のものには「右けかうみち」の文字が見える。割れた面には「左さんくみち」と書かれていたようである。



8 大乗寺



9 石地藏
天保9年(1838)建立。機殿(はたどの)道との分岐点。漕代のはずれにあたる。



11 六字名号碑
文化14年(1817)建立。大稲木集落の西口。正面には6文字の梵字が刻まれている。



10 稲木を行く街道
かつては茶屋や旅籠屋が点在していた。



12 祓川
斎王群行の際、ここで祓いをして斎王宮に入ったことから名付けられた。



13 道標
弘化4年(1847)建立。「従是外宮三里」と刻まれている。

P 65

(25) 齋宮ーA (明和町竹川～上野)

地図内凡例

-  道標など
-  常夜灯
-  神社・仏閣・城址など
-  地蔵など
-  句碑
-  その他文化資産等
-  まちかど博物館
-  博物館・資料館
-  まちがえやすい分かれ道
-  バス停
-  トイレ

この部分は
66 ページを
ご覧ください



2 齋宮歴史博物館



4 いつきのみや歴史体験館



8 竹茗舎



6 秋葉神社
観音寺(現在の牛葉公民館)西隣。観音寺と境内を同じくし、もとは八王子と称していた宇志葉神社があったが、竹神社に合祀された。



5 齋王の森
「齋王宮跡」の碑が建つ。隣接する公園には掘立柱建物の柱跡や井戸の復元、齋王・大伯皇女の句碑がある。齋王の森の前は花菖蒲園になっていた。開花は6月頃。国指定史跡。

このあたりには、駕籠屋の溜まり場・馬の取り次ぎ場がある立場茶屋があり、明治以降は人力車・馬車のたまり場となった。

齋宮駅

このあたりに「大仏」と称するお堂があった。街道北側の蓮光寺のお堂で、参宮客のために、街道筋に建てられたものであった。



3 家なみ
切妻・連子格子の家が立ち並ぶ。

約 1050m

約 1000m

約 500m



1 連子格子の家



7 庚申堂
秋葉神社境内。



9 竹神社
野々宮跡。毎年6月初旬に行われる齋王まつりの齋王行列の出発点。

県道松阪伊勢線

笹笛川

近鉄山田線

(25) 齋宮一B (明和町竹川～上野)

この部分は
65 ページを
ご覧ください



1 道標
北野天満宮
への道案内。
新しく
建て替えら
れている。
昔、ここに
黒木(皮が
付いたまま
の木)の鳥
居があった
という。



2 六地藏石幢(有明六地藏)
永正10年(1513)のもの。県指定文化財。その均整の取れた美しさは、この種のものでは県下一と言われる。笛川地藏院跡の空地にある。



3 庚申堂三棟
笛川地藏院跡。



4 山ノ神五基
六地藏石幢のそば。

道標の西側に絵馬堂と称する小堂があった。絵馬が掲げられており、この絵の馬の毛色で豊作を占うと言われていた。謡曲の「絵馬」で有名。現在、絵馬は竹神社に保管されている。



11 上野に行く街道



12 安養寺



13 地藏・五輪塔
元禄15年(1702)建立。山門左。



14 庚申堂
山門左。

街道沿いの「有明六地藏」の看板が目印。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

約 1050m

約 1000m

約 500m



6 地藏
壺地藏のそば。



5 壺地藏
防火に御利益があるといわれる。昔は街道沿いにあった。



7 家なみ



8 道標
天然記念物のどんと花(野花しょうぶ)群生地への案内。「齋宮旧蹟蛭澤之花園」と刻まれている。どんと花は毎年六月頃に開花。



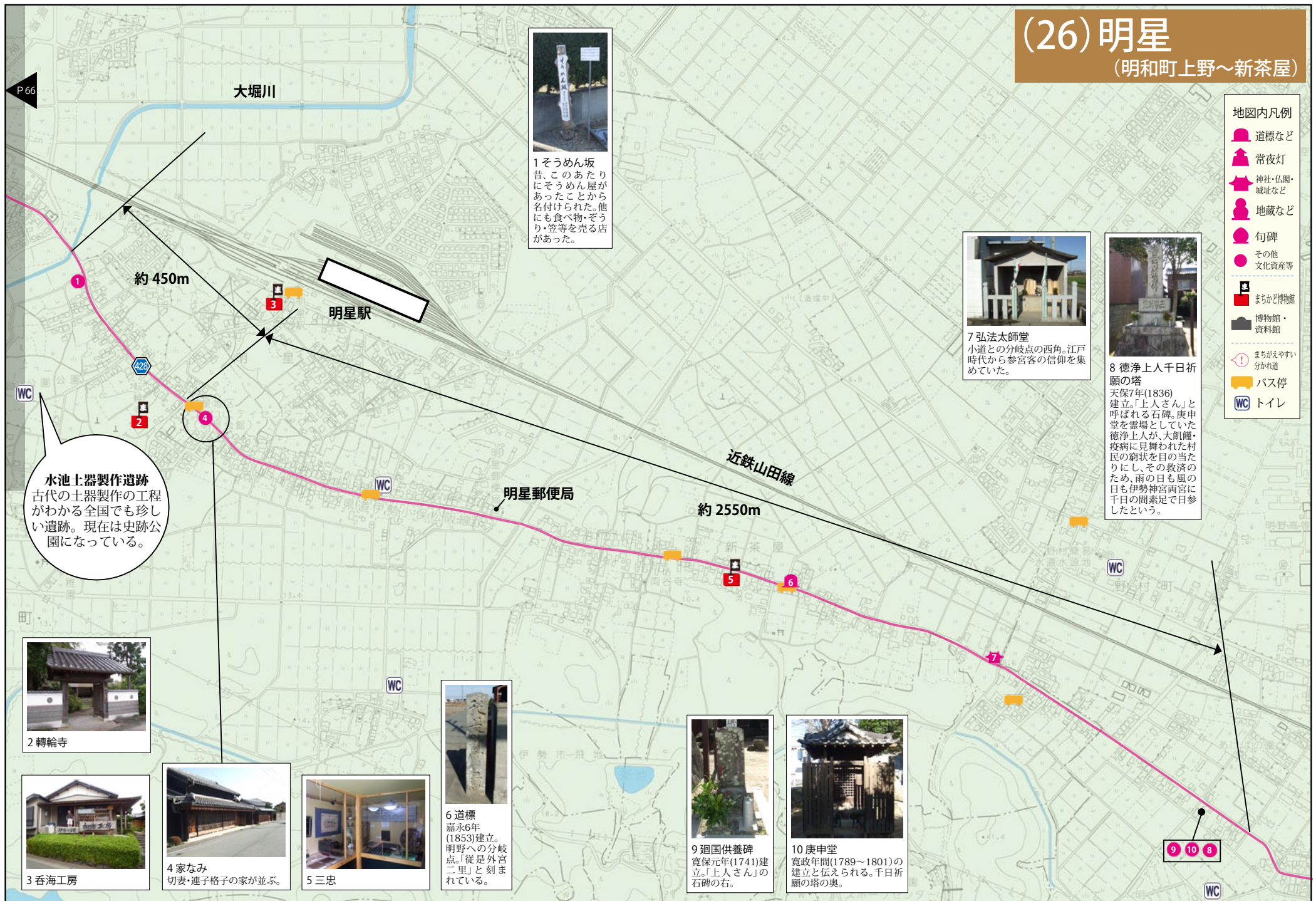
9 道標
明治41年建立。天延2年(974)、病気のため齋宮でなくなった齋王・隆子女王の墓への案内。「齋王隆子女王御墓從是拾五丁」と刻まれている。



10 山ノ神三基
交差点沿いの石積みの上に3つ並んでいる。

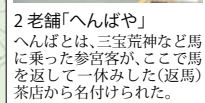
(26) 明星

(明和町上野～新茶屋)

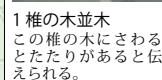


(伊勢市小俣町明野～元町)

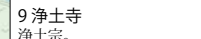
(伊勢市小俣町明野～元町)



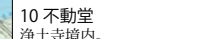
2 老舗「へんばや」
へんばとは、三宝荒神など馬に乗った参宮客が、ここで馬を返して一休みした(返馬)茶店から名付けられた。



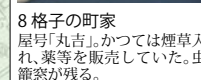
1 椎の木並木
この椎の木にさわるとたたりがあると伝えられる。



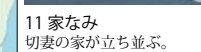
9 浄土寺
浄土宗



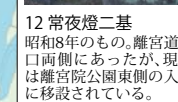
10 不動堂
浄土寺境内



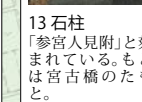
8 格子の町家
屋号「丸吉」。かつては煙草入
れ、葉等を販売していた。虫
簾窓が残る。



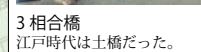
11 家なみ
切妻の家が立ち並ぶ。



12 常夜燈二基
昭和8年のもの。離宮道
口両側にあったが、現
は離宮院公園東側の入
に移設されている。

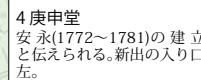


13 石柱
「参宮人見附」と刻まれている。もとは宮古橋のたもと。

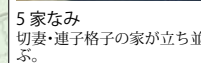


3 相合橋

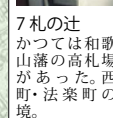
江戸時代は土橋だった。



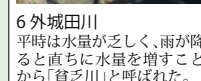
4 庚申堂
安永(1772~1781)の建立
と伝えられる。新出の入り口
左。



5 家なみ
切妻・連子格子の家が立ち並ぶ。

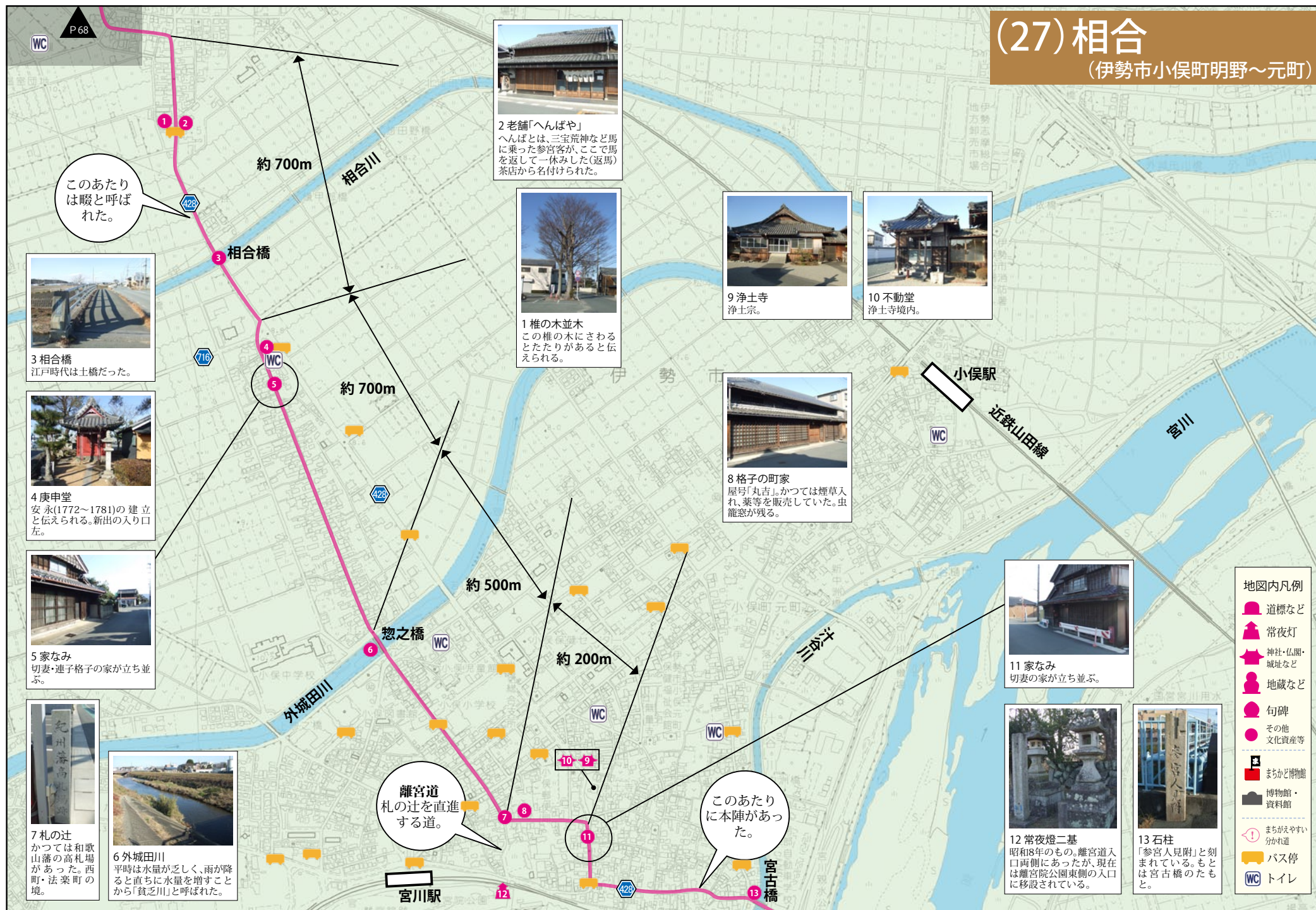


7 札の辻
かつては和歌山藩の高札場があった。西町・法楽町の境。

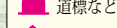


6 外城田川

平時は水量が乏しく、雨が降ると直ちに水量を増すことから「貧乏川」と呼ばれた。



● 2018 年 12 月 18 日



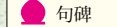
 常夜灯



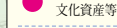
↑ 伴江 伝馬
城址など



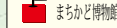
地蔵なし



● その他



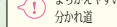
東



博物館・



まちがえやすし

 バス停

WC 1112

(28) 桜の渡し

(宮川～伊勢市八日市場町)

地圖內凡例

-  道標など
 -  常夜灯
 -  神社・仏閣
城址など
 -  地蔵など
 -  句碑
 -  その他
文化資産等
-
-  まちかど博物館
 -  博物館・
資料館
-
-  まちがえやすい
分かれ道
 -  バス停
 -  トイレ



11 簾商玉屋



12 小西萬金丹



(工業)



14 松尾芭蕉句碑



(29) 古市-A (伊勢市本町～中之町)

この部分は
76 ページを
ご覧ください



1 道標
明治26年建立。
「月よみの宮さんけい道」と刻まれている。



11 近鉄宇治山田駅本屋
国登録有形文化財



13 道標
弘化4年
(1847)建立。簀子橋から橋詰公園内に移設。「すぐ二見」「すぐ御さんぐう道」と刻まれている。



14 旧二見道
勢田川の下流に沿って続く道。二見興玉神社へと参拝する人や二見まで船でやってきた人が通った。



15 厩字亭寸句碑



17 尾部坂
「間の山(あいのやま)」ともいう。このあたりに、三味線や胡弓をかき鳴らし、旅人に投銭をうごうとて有名だった芸人・おすぎ・お玉がいた。その場所を示す標柱が立っている。



18 「お紺と斎」の比翼塚
大林寺境内にある。江戸時代、大林寺近くの遊郭・油屋でおこった刃傷沙汰「油屋騒動」の中心人物、お紺と孫福齋の墓。



16 三浦樽良(みうらちよら)句碑

近鉄鳥羽線

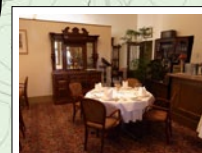
約 450m

伊勢自動車道

約 1100m

約 600m

外宮
豊受大神宮という。内宮が伊勢に鎮座してから約 500 年後、天照大神の大御饗(食事)を司る神として丹波の国から迎えられた豊受大神を祀る。米作りを始め、衣食住すべてに関わる産業の神様。



2 ボンヴィヴァン



3 長谷川素逝・長谷川ふみ子句碑



5 松尾芭蕉句碑



4 豊宮崎文庫跡
国指定史跡。外宮外苑の東。江戸時代に外宮の神主の学校と図書館を兼ねた施設があった。ここに生えている桜の太木は、神宮の屋根に芽吹いた桜が移されたものといわれ、お屋根桜と呼ばれている。



7 松尾芭蕉句碑



6 徳田椿堂句碑



8 為田華明句碑



9 徳田椿堂句碑



12 小田橋
江戸時代までは、本橋の横に小橋(仮屋橋)が架けられており、忌服の人や生理中の婦人は小橋を通ることになっていたという。



10 笹丘高句碑

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

五十鈴川駅



20 長峰神社
俗称を「うずめさん」といい、天鈿女命(あめのうづめのみこと)を祀る。この辺りを昔、寒風(さむかぜ)の里と言った。



19 遊郭油屋の跡
歌舞伎「伊勢音頭恋寝刃」の舞台。標柱が立っている。

(29) 古市一B (伊勢市本町～中之町)

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

この部分は
74・75ページを
ご覧ください



1 山口誓子句碑



2 式年遷宮記念神宮美術館

神宮文庫
神宮付属の図書館。神道・国文学・歴史・民俗関係の書籍を約 26 万冊所蔵。神道関係では国内最大規模を誇る。



3 神宮農業館



4 神宮徴古館



5 道標「古市へ二町」と刻まれている。

五十鈴川駅



6 黒門
神宮文庫の入り口にある門。伊勢神宮信仰を全国に布教して回った御師の一人、福島まさき太夫邸の門を移築したもの。鯉を付けたその風格は、御師の繁栄ぶりを物語。伊勢市指定文化財。



7 皇學館大学佐川記念神道博物館



13 伊勢古市参宮街道資料館

伊勢自動車道

約 450m

約 1100m

約 600m



8 麻吉歴史館



12 切妻造りの家なみ寂照寺の周辺。



9 道標 天保年間(1830～1844)建立。麻吉旅館前。



10 道標 文化20年(1813)建立。麻吉旅館の石階段の下。「つづら右道」と刻まれている。



14 道標 明治27年建立。「月よみの宮さんけい道」と刻まれている。



11 寂照寺 徳川家康の孫千姫の菩提を弔うため創建された寺。



15 桜木地藏

(30) 伊勢神宮内宮 (伊勢市桜木町～伊勢神宮)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



19 道標
大正5年建立。宇治橋前ロータリーの本陰。「五カ所街道」と刻まれている。剣峠を越えて南伊勢町五ヶ所への道の案内。



20 旧林崎文庫
江戸時代の内宮領の学舎。本居宣長や鴨長明など、参宮に訪れた学者が立ち寄って講義をしたという。国指定史跡。

内宮
垂仁天皇皇女、倭姫命が天照大神がご鎮座する地を求めて各地を旅し、大神のお告げによってここ伊勢を鎮座地に選ばれたのが始まりといわれ、その歴史は約2000年にも及ぶという。



1 常夜燈二基
大正3年建立。牛谷坂の上。



2 小坂美術館



3 猿田彦神社
天孫降臨の際、道案内をつとめた猿田彦命を祀る。みちひらき(開運)の神様として信仰される。



4 畑井工房



6 お伊勢まいり資料館



7 おはらい町
伊勢神宮内宮の門前町。切妻妻入りの伝統的な伊勢の町なみが復元されている。



5 道標
明治26年建立。「月よみの宮さんけい道」と刻まれている。

近鉄鳥羽線



8 おかげ座



10 山口誓子句碑



9 老舗「赤福本舗」
宝永4年(1707)創業の老舗。伊勢土産として人気の赤福餅は、白い餅が五十鈴川の川底の石を、三筋の指の跡が付いた船が川の流れをあらわしているという。



11 おかげ横丁
おはらいまちの一角に、切妻妻入りの洋館などが復元され、郷土料理や名産品の店が並ぶ。



14 山口誓子俳句館



13 徳力富吉郎版画館



18 生姜糖博物館(二光堂)



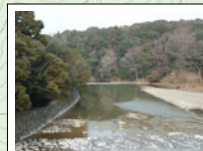
17 上地木工所



16 百鱗房(岩戸屋)



15 白鷹・三宅商店



22 五十鈴川



21 宇治橋
五十鈴川にかかる長さ約102mの総檜造りの橋。橋の両側に立つ二つの鳥居は、内宮・外宮の正殿の旧棟持柱で作られる。

五十鈴川

五十鈴公園

鳥羽道

朝熊岳道 (宇治岳道)

磯部道

約400m

約200m

約750m

このウォーキングマップは、三重県の街道を訪れる人や、地域に暮らす人誰もが街道や周辺の文化資産等に興味を持ち、触れることができるように作成しました。

場所によっては旧街道のルート自体が道で無くなっていたり、現在は通行できない箇所もあります。

その場合は迂回路等をご案内しており、史実に沿わない部分もありますが、あくまで旧街道を基本に周辺に残る文化や、新しく発展した文化などをご紹介します、散策を目的にご利用いただくものとご理解ください。

地図上のマークの位置は目安で、実際の位置と若干異なる場合があります、隣接する資産等はを並べて表示している場合がありますので、ご注意ください。

また、マップに掲載されている「まちかど博物館」や「博物館・資料館等」につきましては、開館日や開館時間等が決められており、予約が必要な場合もありますので、事前にご確認・ご連絡の上、訪問していただきますようお願いいたします。

なお、お気づきの点等がありましたら、ご指摘等いただければ幸いです。

みえの歴史街道の詳細情報やまちかど博物館、博物館・資料館の連絡先や概要、句碑の詳細情報などは下記ホームページからご覧いただけます。

「三重の文化」

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/>



歴史街道のルートや文化資産について、下記ホームページからスマートフォン・タブレット端末でもご覧いただけます。

「三重の歴史・文化散策マップ」

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/map/t/>



●掲載されている文化資産やまちかど博物館等の情報は平成23年2月時点のものです。
●この地図は三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図（数値地形図縮図10,000）」を使用し、調整したものです。（承認番号：三自治地第195号）本成果を複製あるいは使用して地図を調整する場合は、同組合の承認を必要とします。
●バス停・トイレの情報は「平成22年度生活密着型地理空間情報整備緊急雇用創出事業」で、平成22年10月から23年1月にかけて調査したものです。



みえ歴史街道

～みえ歴史街道構想～

三重の「街道」の持つ魅力を、
観光資源としてだけでなく、
豊かでうるおいのある生活や
文化を創造していく資源として活かし、

1

住む人、訪れる人の両方が
満足できるような地域づくり

2

未来へ向けて様々な
新しい交流が生まれる地域づくり

3

各地域の個性を磨きながら、
広域的に一体感のある地域づくり

を目指す三重県の構想。

(お問い合わせ先)

〒514-8570 三重県津市広明町13番地
三重県環境生活部文化振興課

電話：059-224-2233 e-mail:bunka@pref.mie.jp